

令和6年度第2回地域公共交通活性化協議会 会議次第

日時 令和6年8月1日（木）午前10時00分から午後12時00分
場所 本庁舎 第一会議室

1 はじめに

2 議題

- ① 今回の会議内容と前回会議での指摘と対応 …資料1・2
- ② 目標達成のための施策・事業 …資料3
- ③ 達成状況の指標 …資料4
- ④ 地域懇談会の実施 …資料5-1・5-2

3 報告

- ① 野川・七軒家循環における乗り残し …資料6
- ② コミュニティバスのお盆ダイヤについて
- ③ 路線バスの夏のダイヤ改正について

4 その他

5 閉会

[配布資料]

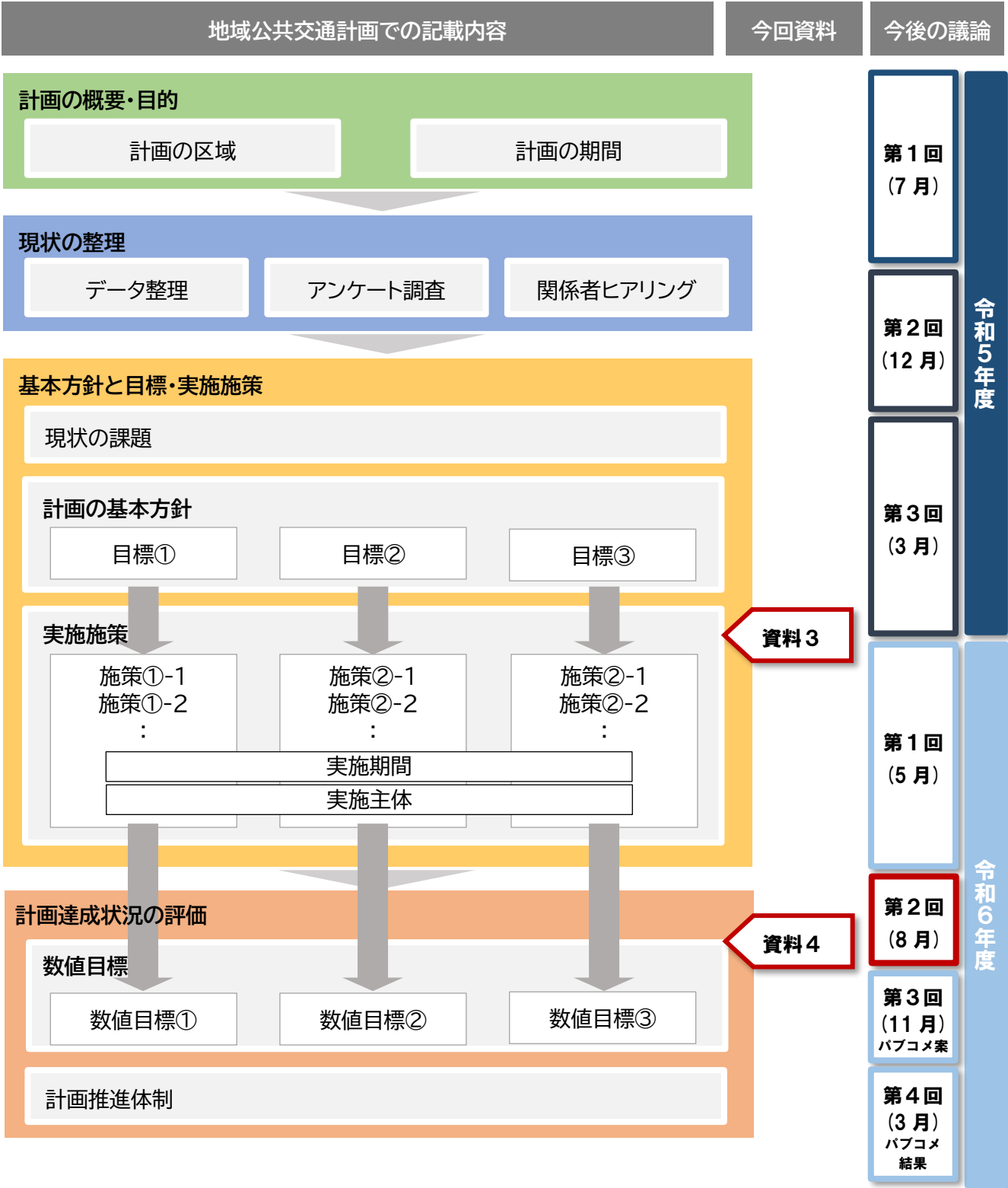
- ・ 資料1 今回の会議内容
- ・ 資料2 令和6年度第1回地域公共交通活性化協議会での指摘と対応
- ・ 資料3 目標達成のための施策・事業
- ・ 資料4 達成状況の指標
- ・ 資料5-1 地域懇談会の実施
- ・ 資料5-2 地域懇談会のチラシ案
- ・ 資料6 野川・七軒家循環における乗り残しについて
- ・ 参考1 CoCoバス便り vol.5
- ・ 席次表

※当日配布

今回の会議内容

1 地域公共交通計画の構成

地域公共交通計画での記載事項と検討時期・今回の資料との対応は以下のとおりです。



令和 6 年度第 1 回協議会 ご指摘と対応

(1) 目標達成のための施策・事業について

	ご指摘	発言者	対応
1	<p>施策 1-4 ①「公共交通利用の啓発」及び施策 2-2 「①心のバリアフリー」は、幼少期からの教育が重要であるため教育機関との連携について検討してはどうか。</p> <p>関東運輸局でも心のバリアフリー教育を実施しているため可能な範囲で協力する。</p>	<p>中山 (代:染谷)</p>	<p>地域懇談会で多く出た意見として大人への周知・教育を特に課題として認識しているため、大人世代に注目した表現となっていたが、指摘踏まえ、施策の内容に子供世代への啓発を追加し、それに伴い関連・連携機関に教育機関を追加した。</p>
2	<p>北東部循環で小金井公園入り口と建物園があるが、こどもの広場に近い降り場がわからない事が多い。あまり乗らない方にもわかりやすいような表示をしてほしい。</p>	平野	<p>野川公園バス停近くへは案内を掲示済みであり、桜町病院バス停脇のフェンスにも案内を掲示することで調整している。その他必要な施設に対しても、手を入れられるのはバス停など限られたスペースであるが、対応を検討したい。</p>
	<p>桜町病院や緑センターのバス停から施設までの行き方が分かりづらく、近くの施設で聞いている状況なのでわかりやすい情報提供をお願いしたい。</p>	平野	
	<p>野川公園入口のバス停は周辺が住宅で公園入り口までの道もわかりにくい。案内を充実させてほしい。</p>	平野	
3	<p>心のバリアフリー推進については、前回協議会の議論で、乗客の方が車いすの乗降に対応するのではなく、乗務員が行うので、ベビーカー利用については見守る記載のほうがよいのではないか。</p>	青木	<p>施策 2-2①の記載については、バス事業者との協議踏まえて修正した。</p>
	<p>事故の際の責任問題もあるため、原則車いすのお手伝いは事業者で実施が良いと考えている。</p>	秦野	
4	<p>車内で英語の案内がある場合、バス協会等で雛形があって作成しているか、もしくは各社個別での対応なのか確認したい。乗降方法だけでも多言語対応できると良い。</p>	青木	<p>多言語化対応の手法についての議論になるため、計画書に記載ではなく、事業実施の際の参考とする。</p>
	<p>おそらく各社での対応となっていると考える。</p>	秦野	
5	<p>道路空間の制約から、無電柱化のスケジュールは長期に渡ることが想定されるが、現状の記載で問題がないのか。</p>	永田	<p>関係部局と調整し、記載内容を修正した。</p>
6	<p>施策 3-1 に再掲となっている施策 2-3 「①リアルタイム運行情報の提供」は施策 3-2 へ移動するほう</p>	永田	<p>目標、施策、事業はそれぞれ相互関連するものが多数あり、再掲と</p>

	ご指摘	発言者	対応
	が良いのではないかと。		すると煩雑となるため、主として関連するものを記載することとし再掲表記はしないこととした。
7	4-2②に国や他自治体での具体事例を提示していただきたい。	永田	文京区のシェアサイクル利用データの活用事例を掲載した。
8	1基本方針の目標2に掲げる「安全・安心」という言葉は、客観的なものと主観的なものがあり、今の書き方が適切なのか再考願いたい。	永田	目標2の「安全・安心」は、ホームドアの整備などハード面での客観的な安全の確保と、心のバリアフリーの推進などソフト面での主観的な安心という両側面での対応を目標としており、主観客観含めた広い意味での安全・安心を想定して記載している。記載としては、現状のままとした。

(2) 達成状況の指標について

	ご指摘	発言者	対応
9	目標2の指標として市内交通事故件数があるが、乗用車の事故が多いと想定されるため運行情報の提供や運行情報板の設置などの指標の方が良いのでは。	青木	無電柱化による自転車の安全利用などもあるため事故件数を成果指標ではなくモニタリング指標として設定した。現在、状態別での取得が可能な確認中である。
10	周辺自治体での地域公共交通計画の策定状況は把握しているか。ゾーンとしての連携が必須と考える。情報共有も必要と考えるがどうか。	坂本	周辺市の状況については把握している。情報共有や連携については今後必要に応じて行っていく。
11	新技術を活用する検討会の設置は重要な場であるのでアウトプットというよりアウトカムではないかと感じている。また、導入する新技術の数がアウトプットとなり、その観点で公共交通オープンデータの事業者の数という指標がふさわしいのか疑問である。	永田	新たな技術については、それを導入し、どういった効果をもたらすという設定ができればアウトカムになりうるが、国の検討状況もあるため、まずは検討・協議体数を成果指標とした。EVやオープンデータ活用については既に進んでいる部分もあるためモニタリング指標とした。
12	成果指標2の市内公共交通の満足度とあるが、現状のサービス維持は難しい。赤字路線を廃止して黒字区間に集中する意向。バス事業のみとすると、満足	秦野	情報提供などの他の施策により総合的な底上げを図りたい。

	ご指摘	発言者	対応
	度が増加することは想定しにくい。		
13	満足度が個別の事象に矮小化されたものにならないよう調査時の聞き方・見せ方には留意が必要。	会長	長期総合計画の指標になっており、市長への手紙等を活用するため、文言を更新するかなどは、今後、長期総合計画の後期基本計画の中で検討する。

(3) 令和5年度 CoCo バス利用実績等について

	ご指摘	発言者	対応
14	野川・七軒家ルートだけ客単価が100円を下回っており異質な数値になっており精査していただきたい。	永田	介護保険証の携帯に抵抗のある方を中心に回数券の購入が多く、その場合乗車時には計上されないことや、回数券販売が京王バスの委託店のため回数券収入は、野川・七軒家以外の路線に振り分けられていることによる。 今回の報告は、補助金上の数値であり、今後ガイドラインの収支状況を確認する際のデータの考え方は、別に検討していく。

4章 | 基本方針と目標

1 基本方針

小金井市の交通に関する4つの課題の整理を踏まえ、小金井市の地域公共交通のあるべき姿として、以下の通り、基本方針を設定しました。

誰もが自由に選択できる
地域公共交通を、
みんなで守り育てるまち

2 計画の目標

地域公共交通のあるべき姿を実現するために、小金井市で取り組むべき事項として4つの目標を設定しました。

目標1

持続可能な地域公共交通ネットワークを確保します

目標2

安全・安心で快適に移動できる環境をつくります

目標3

地域の魅力向上のために
移動に便利なまちの拠点をつくります

目標4

新たな技術等の効果的な活用に向けた
検討を行います

5章 | 目標達成のための施策・事業

設定した4つの目標を達成するため、実施すべき施策と事業（案）を以下に示します。

目標1 持続可能な地域公共交通ネットワークを確保します

事業	スケジュール							
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
施策1-1 持続可能な公共交通ネットワークの構築								
① バスの持続可能な交通ネットワークに向けた連携	■							
② 地域の多種・多様な移動手段の連携	■ 実施・継続							
③ 公共交通の現状に関する情報発信	■							
施策1-2 コミュニティバスの効果的な活用								
① CoCoバスガイドラインの継続的な運用	■ 準備・検討							
② CoCoバスだよりの発行	■							
③ CoCoバスサポーターの導入検討	■							
施策1-3 公共交通不便地域への対応								
① 移動に関する情報提供	■							
② 新たな交通手段や運行形態の検討	■							
施策1-4 公共交通の利用促進								
① 公共交通利用の啓発	■							
② 運転免許返納後の公共交通利用促進	■							
③ 公共交通利用促進に資するイベント等の実施	■							
施策1-5 公共交通の担い手不足への対応								
① 運転士不足の現状と課題の情報発信	■							
② 運転士確保についての働きかけ	■							

目標2 安全・安心で快適に移動できる環境をつくれます

事業	スケジュール							
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
施策2-1 移動環境の改善								
① 鉄道のバリアフリー化・安全確保の促進	■							
② 主要バス停でのバス待ち環境の改善	■							
③ ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入促進	■							
施策2-2 公共交通利用マナーの向上								
① 心のバリアフリーの推進	■							
② バス車内環境の改善	■							
③ 交通ルール・マナーの向上	■							

事業	スケジュール							
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
施策2-3 情報提供の充実化								
① リアルタイム運行情報の提供								
② 公共交通マップの更新								
③ 移送サービス情報の集約、周知								
施策2-4 歩行空間・自転車利用環境の形成								
① 無電柱化事業と合わせた歩道の補修、改善								
② 自転車総合計画の策定による走行空間の確保、安全利用の推進								

目標3 地域の魅力向上のために移動に便利なまちの拠点をつくります

事業	スケジュール							
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
施策3-1 乗り継ぎ・乗り換え機能の強化								
① 乗り継ぎ・乗り換え拠点の整備								
② 駅前広場の維持・管理								
③ 地域の乗り継ぎ拠点の設置検討								
施策3-2 乗り継ぎ・乗り換え拠点における情報提供の充実化								
① 駅や主要バス停でのわかりやすい情報提供								
② 多様な主体への案内機能の強化								

目標4 新たな技術等の効果的な活用に向けた検討を行います

事業	スケジュール							
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
施策4-1 新技術の活用に向けた検討								
① シェアリングサービスの適切な活用								
② 新たな技術や制度の活用に向けた関係者との連携								
③ 民間資源の活用・連携								
施策4-2 公共交通に関するオープンデータのまちづくりへの活用								
① オープンデータ化の促進								
② まちづくりへの活用に向けたデータ収集・活用の検討								
施策4-3 環境にやさしい車両の導入支援								
① 環境にやさしい車両の導入支援								
② 充電・充填施設の整備支援								

目標 1 持続可能な地域公共交通ネットワークを確保します

施策 1-1 持続可能な公共交通ネットワークの構築

小金井市の公共交通ネットワークは、鉄道・路線バスを中心として、コミュニティバス・タクシー等で形成されています。今後も公共交通サービスを維持していくため、各交通手段の連携を進め、限られた資源を最大限活用しながらネットワーク全体の効率化と利便性の確保を図ります。

また、社会情勢や市内公共交通を取り巻く状況及び環境が変わった際は、交通事業者をはじめ関係機関等による協議を行いつつ、地域の利用状況の把握や調査等を踏まえ、地域公共交通活性化協議会における検討・協議により、持続可能な交通ネットワークとなるよう努めます。

コミュニティバスも合わせて持続可能性を確保する意味で追加

①バスの持続可能な交通ネットワークに向けた連携																	
<ul style="list-style-type: none"> 小金井市内を運行する路線バス及びコミュニティバスは、各バス事業者との連携によりネットワークの維持・改善に取り組んでいきます。 周辺自治体と接続する路線が多くを占めることから、情報発信や協議等により、周辺自治体との路線維持等に向けた連携を行います。 																	
実施主体	市																
関連・連携機関	バス事業者・周辺自治体																
スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> <th>R12</th> <th>R13</th> <th>R14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">実施・継続</td> </tr> </tbody> </table>	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	実施・継続							
R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14										
実施・継続																	
②地域の多種・多様な移動手段の連携																	
<ul style="list-style-type: none"> 既存の公共交通（鉄道・路線バス・コミュニティバス・タクシー）を軸として、福祉輸送やシェアリングサービス、民間の移動サービスなどの地域の多種・多様な移動手段との関係性を整理した上で、適切な連携と役割分担を図ります。 																	
実施主体	市																
関連・連携機関	交通事業者、民間・福祉輸送事業者																
スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> <th>R12</th> <th>R13</th> <th>R14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">実施・継続</td> </tr> </tbody> </table>	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	実施・継続							
R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14										
実施・継続																	
③公共交通の現状に関する情報発信																	
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用状況や公費負担の現状に関して、定期的なモニタリングを行います。 結果は市ホームページやイベントにて発信し、市民と公共交通のあり方を共に考えるきっかけとします。 																	
実施主体	市																
関連・連携機関	バス事業者																
スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> <th>R12</th> <th>R13</th> <th>R14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8" style="text-align: center;">実施・継続</td> </tr> </tbody> </table>	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	実施・継続							
R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14										
実施・継続																	

施策1-2 コミュニティバスの効果的な活用

小金井市コミュニティバス「CoCoバス」は、導入から20年が経過しました。平成30年度から再編事業に取り組み、交通状況や市民ニーズの変化、地域課題等を踏まえて「小金井市コミュニティバス「CoCoバス」再編計画（R4.8）」を策定し、一部路線のルート変更及び運賃体系の変更を行い、令和5年4月から再編運行を開始しています。

今後は再編後のCoCoバスの基本方針に基づいて、地域住民・バス事業者・市が協働して守り、育てる取組を継続することで、地域と心の通うバスとして愛着をもってもらい、効果的に活用されることを目指します。

①CoCoバスガイドラインの継続的な運用								
<ul style="list-style-type: none"> 「CoCoバス運行ガイドライン（R4.8）」では、運行の見直しを検討する際の基準、かつ地域住民や利用者の方が利用状況を把握し、より利用を促進するための基準となる「運行継続基準」を再編後2年が経過した後に設定することとしています。利用の定着や社会情勢を注視しつつ、ガイドラインの改定により具体的な数値を設定します。 CoCoバスの利用状況の定期的な評価を行い、利用状況や収支状況について市民へ情報を共有することで、CoCoバスのあり方を共に考えるきっかけとします。 ガイドラインで設定した基準指標（運行にかかる収支状況及び利用者数）が運行継続基準を下回った場合は、市・地域住民にて見直し検討を行います。また、新規路線の導入や既存路線の変更が必要な場合は、「運行基準」に考慮して検討を行います。 社会情勢の変化等により見直しが必要となった場合には、ガイドラインの改定に向けた検討を行います。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	地域住民・バス事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討							
追加								
②CoCoバスだよりの発行								
<ul style="list-style-type: none"> CoCoバスの利用者増加に向けて、CoCoバスを利用したい気持ちを醸成するため、CoCoバスの利用方法や立ち寄りスポット、収支状況等を掲載した「CoCoバスだより」を発行します。 市ホームページの他、CoCoバス車内や市の出先機関、回数券販売所で配布することで、CoCoバスを日常的に利用していない方や来訪者に対してもCoCoバスの魅力の発信を行います。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

③CoCo バスサポーターの導入検討

- 地域住民・バス事業者・市のそれぞれが過度な負担なく持続可能なサービスを提供することを目的として、CoCo バスを応援したい気持ちを醸成するために、バスサポーターの導入を検討します。

実施主体	市	サポーターとなる地域住民を追加						
関連・連携機関	地域住民・バス事業者	追加						
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

小金井市の取組 公共交通のカバー状況

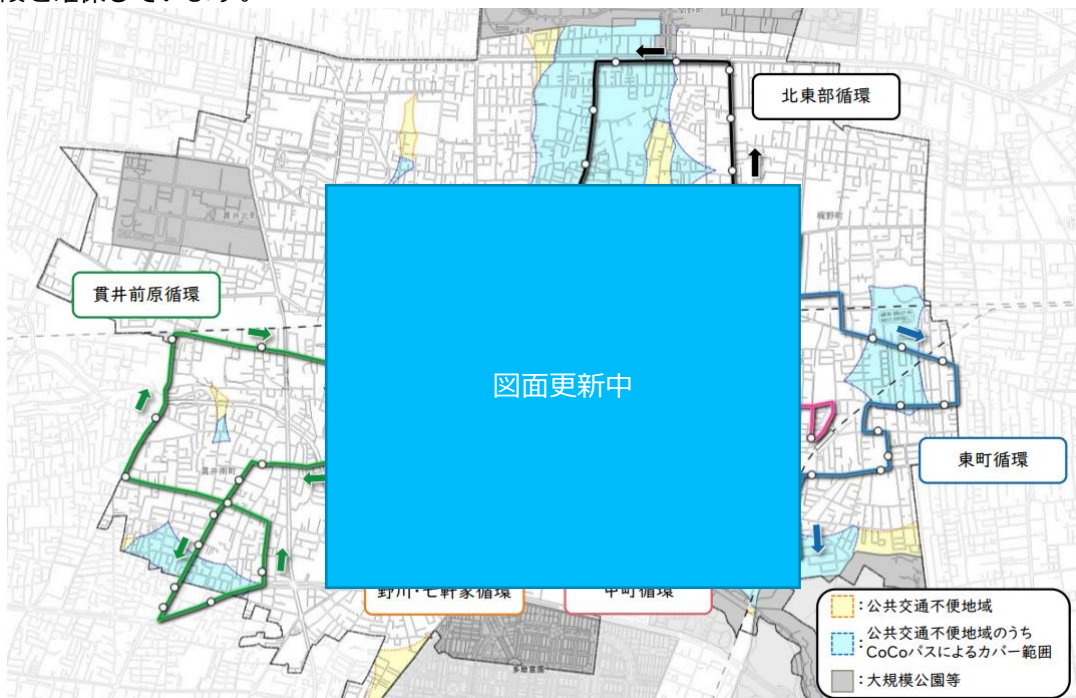
小金井市では、JR 中央線・西武多摩川線、多くの路線バスが地域の移動の足を担っています。

しかし、道路幅員が狭い箇所も多く、路線バスが走行できないような地域の移動手段を担うため、令和 5 年 4 月にコミュニティバス（CoCoバス）の運行路線を再編し、公共交通不便地域の多くをカバーしています。

坂下の道路が狭い地域の一部には、ワゴン車両の CoCoバス・ミニを運行し、公共交通不便地域の移動手段を確保しています。

追加

ミニが坂を上っている写真



※令和5年4月以降のCoCoバス路線図を重ねた場合

※公共交通不便地域：鉄道駅から 500m(新小金井駅は 300m)以遠かつ、1日の運行本数が 20 便以上の路線バス停留所から 300m 以遠の地域

追加

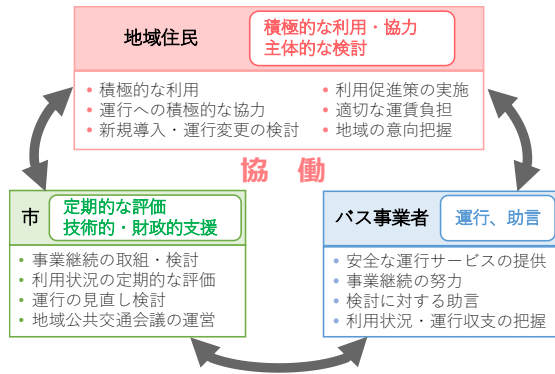
小金井市の取組 CoCo バス運行ガイドラインの策定

運行状況の定期的な評価の実施方法と、地域の方々が CoCo バスを改善したいと考えたときの検討方法を示す手引書として、CoCo バス運行ガイドラインを策定しています。

05 運行ガイドライン

CoCoバスを継続的に運行するためには、地域のことを最も知っている地域の方々が中心となって、問題を共有し、CoCoバスを守り、積極的に利用し、育てていくことが大切です。

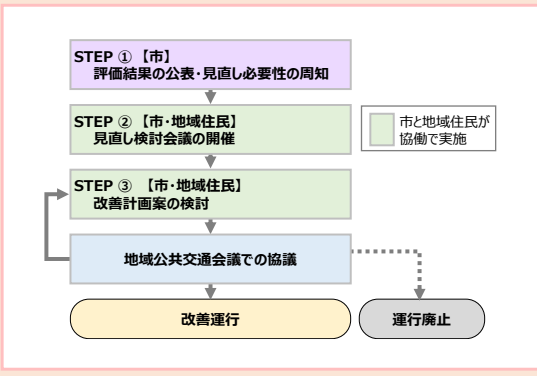
より良い運行となるよう、どこを走行したら、どんな工夫をしたらみんなが乗るバスになるか等を念頭に置いて、**地域住民・バス事業者・市の3者が協働していく仕組みを周知し、理解し、活用**してもらうためにガイドラインを策定しました。



●現在の運行路線に対する定期的な評価(PDCA)

CoCoバスの持続可能な運行のため、運行状況の定期的な評価を行うこととします。

日々のCoCoバスの運行状況から、運行継続基準をもとに評価し、評価結果を公表します。2年連続で運行継続基準を下回った場合は、見直しの必要性の周知、市や地域住民の方との見直し・改善案の検討を経て、地域公共交通会議で改善運行実施の可否を判断します。

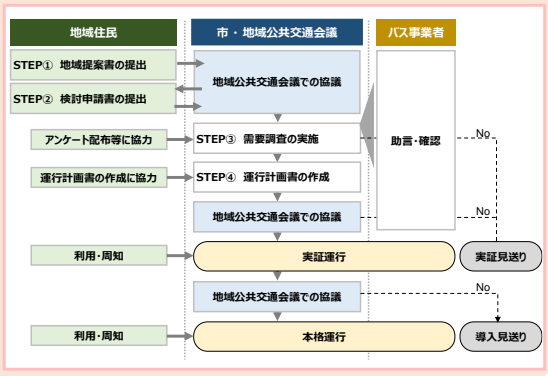


●地域提案による新規導入・運行変更検討

地域の方々がCoCoバスを新しく導入したい・変更したいと考えた際に提案を行うことができます。

地域提案書を提出し、地域公共交通会議での協議の内容を踏まえて、ルート案やサービス水準を検討し、検討申請書を提出していただきます。

需要調査の実施、運行計画書の作成等を経て、実証運行での利用者の状況などを確認し、本格運行をすべきとなった案について、本格運行へ移行します。



【基準指標に関する今後の検討予定】

定期的な評価(PDCA)、実証運行の実施要件、本格運行への移行要件については、以下の基準指標を満たしているかどうかで判断します。(CoCoバスとCoCoバス・ミニで数値は別設定)

ただし、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、一定程度、社会情勢の様子や再編後の利用状況を見守る期間を設けた上で、令和7年度に基準指標の数値を設定する予定です。

- ・運行にかかる収支状況 ●%
- ・1便あたりの利用者数 ●人/便

出典：CoCoバス再編計画・運行ガイドライン概要版より抜粋

1章

2章

3章

4章

5章

6章

資料編

小金井市の取組 **CoCo バスだよりの発行**

CoCoバスに関する様々な最新情報をお届けするため、「CoCoバスだより」を発行しています。CoCoバス車内、市の出先機関、回数券販売所にて掲示・配布を行っています。



CoCoバスをより良くするための取組の紹介

CoCoバスで行くことのできるスポットの紹介

お得な回数券の利用案内

出典：小金井市ホームページ「CoCoバスだより」より作成

他地域の事例 **バスサポーターの導入**

市川市では、わくわくバス（市川市コミュニティバス南部ルート）の車内に、沿線の保育園園児が描いた絵を飾っています。

また、市の運行負担額を縮減するとともに、地域の方にコミュニティバスを支援いただくことも必要との考えから、協賛制度（寄附）の募集も行っています。

出典：市川市ホームページ「わくわくバス（市川市コミュニティバス南部ルート）に絵を飾りました」「コミュニティバスを応援してください」より作成



施策 1-3 公共交通不便地域への対応

小金井市は市域のほとんどが公共交通でカバーされていますが、道路状況等により公共交通不便地域として残っている箇所や、坂による高低差などからアクセスが不便な地域・施設が残っている状況です。

このような地域や施設の移動を支援するため、乗り継ぎや乗り換えのハードルを下げるための情報提供や、新たな交通手段や運行形態について検討します。

①移動に関する情報提供								
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通での移動が難しい地域や施設からの移動に関して、市内の公共交通を中心に、近くのシェアリングポートの周知など、多様な交通手段を組み合わせた効率的な移動方法についての情報提供を行います。 関連団体との連携により、公共施設や病院など、公共交通利用者の移動ニーズが高い施設を抽出し、最寄りの鉄道駅や主要なバス停からの移動について、わかりやすい案内情報を作成し提供します。 公共施設や病院などの来訪者の利用が多く見込まれるバス停では、どこのバス停で降りたらよいかの車内案内や、バス停から施設への道順の掲示を行います。 								
実施主体	市						次ページの事例と併せて追加	
関連・連携機関	交通事業者・関連団体							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

②新たな交通手段や運行形態の検討								
<ul style="list-style-type: none"> 既存の路線バスやコミュニティバスだけでは交通手段の確保が難しい地域においては、必要に応じて関係者協議の場を設け、個別移動を担うタクシーやライドシェア等の活用に向けた調査・研究、ニーズの変化に応じた運行形態やサービスの提供方法等の検討を行います。 								
実施主体	市						バス以外の交通手段や運行形態の検討について記載	
関連・連携機関	交通事業者・地域住民							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

小金井市の取組 バス停近くの施設への道案内の掲示

小金井市内の病院や公園など、来訪者が多い施設近くのバス停では、沿道施設の協力により施設までの道案内を掲示しています。



小金井市都市整備部交通対策課



他地域の事例 効率的な移動方法のチラシの作成

名張市では、「ここから出るバスがどこに行くのかわからない」、「たくさんの種類のバスが出ていてどのバスに乗ればいいのかかわからない」という悩みを少しでも解消するために、市内の主要な施設を結ぶ行き先別の市内のバス（三重交通、コミュニティバス）の時刻表を作成しています。

★行き先別時刻表って？★



ここから出るバスがどこに行くのかわからない。
 たくさんの種類のバスが出ていてどのバスに乗ればいいのかかわからない。

そんな悩みを少しでも解消するために、市内の一部の駅、病院、お買い物施設へ向かうバスの一覧を作成しました。

この時刻表は、
**名張駅、桔梗が丘駅、市立病院、市役所、イオン名張店、ドンキ名張店
 岡波総合病院、マックスバリュ名張店**
 に向かうバスの平日ダイヤが載っています。



★行き先別時刻表の使い方★

例)名張駅西口から名張市役所に行きたい場合

出発時刻、到着時刻、料金、のりばが一目でわかります

行き先を確認

バスの名称、
 方面を確認

→名張市役所に行く	出発時刻	到着時刻	料金	のりば
三重交通 (名張市役所行)	8:15	8:21	180円	1
ナツキー号 (市役所経由桔梗が丘駅方面)	8:30	8:40	100円	2
ナツキー号 (市役所経由桔梗が丘駅方面)	10:10	10:20	100円	2
三重交通 (名張市役所行)	11:50	12:00	180円	1
三重交通 (名張市役所行)	13:15	13:21	180円	1
ナツキー号 (市役所経由桔梗が丘駅方面)	13:30	13:40	100円	2
ナツキー号 (市役所経由桔梗が丘駅方面)	15:10	15:20	100円	2
	16:50	17:00		

7つの施設にそれぞれの時刻表を掲示または配布しておりますので、ぜひご利用ください！



作成:名張市地域公共交通会議 事業推進部会
 発行:名張市役所 都市計画室(0595-63-7749)

出典：名張市ホームページ「主要施設に向かう行き先別時刻表（令和6年4月更新）」

施策 1 - 4 公共交通の利用促進

新たな生活様式や価値観の定着により、公共交通の利用者数は新型コロナウイルス感染症拡大前より減少傾向にあります。公共交通ネットワークを維持していくためには、公共交通を利用していただき、地域の移動手段として守っていくことが必要となります。

また、公共交通を利用することは温暖化の防止など地球環境の保全にも寄与し、持続可能な社会をつくることにもつながります。

市内を移動する多様な世代、様々な考え方や特性を持つ方々に応じた公共交通利用の啓発を行うことで、公共交通を利用する意欲を醸成することを目指します。

①公共交通利用の啓発								
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用した外出の促進や、マイカーから公共交通・自転車などの利用への自発的な転換を促進するため、公共交通の利用方法だけでなく、利便性やメリットを合わせて伝えるチラシやポスターを作成します。 教育機関等と連携し、公共交通の利用のメリットなどを子どもたちにわかりやすく伝えます。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者・関連団体・教育機関							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				
追加								
②運転免許返納後の公共交通利用促進								
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の運転免許自主返納を推進するとともに、包括支援センターや運転免許センター等と連携し、運転免許証返納前後の高齢者に対して、路線バスの乗り方講座の開催など公共交通を利用しやすくするための情報提供を行います。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者・包括支援センター・運転免許センター等							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				
③公共交通利用促進に資するイベント等の実施								
<ul style="list-style-type: none"> 多様な世代の市民や来訪者に対して公共交通の利用を促すためには、イベント等の集客を利用して、情報提供を行うことが有効です。交通事業者や周辺自治体と連携し、公共交通イベント「こがねい★バスフェス」を継続的に実施します。 「こがねい★バスフェス」やその他イベントと連携し、グッズ配布と合わせた CoCo バス一日乗車券の販売、専門家によるバスの乗り方講座、ベビーカーでのバスの乗り方講座などの情報発信を行います。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者・周辺自治体							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							
合同開催としての継続も想定し、追加								

他地域の事例 公共交通利用の啓発

千葉市では、市民が地球環境に配慮したライフスタイルへの転換を図るとともに、環境保全に対する理解を深めることを目的として、「ちばしエコライフカレンダー」を配布しています。また市内への転入者などを対象に、公共交通利用のメリットをまとめたリーフレットを配布しています。

■ ちばしエコライフカレンダー（左）、転入者向け公共交通利用促進リーフレット（右）



出典：千葉市ホームページ「2024 ちばしエコライフカレンダー」、
「公共交通利用促進リーフレット ～Smart & Enjoy CHIBA Life (スマチバ!)～」

施策1-5 公共交通の担い手不足への対応

公共交通ネットワークを守るためには運転士の確保が必要不可欠となりますが、小金井市内のバス・タクシー事業者の多くが人手不足の問題をかかえており、路線やサービスの縮小をせざるを得ない状況です。

このような状況を公共交通のあり方について関心を持ってもらうきっかけとして広く発信するとともに、事業者と連携し、運転士を確保することを目指します。

① 運転士不足の現状と課題の情報発信

- バス・タクシー事業者と連携し、市ホームページでバスサービスの変更状況や運転士不足の現状に関する情報発信を行い、市民と公共交通のあり方を共に考えるきっかけとします。
- 合わせて運転士の仕事の魅力や運転士の募集情報を発信することで、運転士の仕事に興味を持っていただくきっかけを作ります。

実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

②運転士確保についての働きかけ

- バス・タクシー事業者、多摩地域の他自治体及び東京都等と連携し、「こがねい★バスフェス」を始めとするイベント等にて運転士募集ブースを設置し、バス・タクシー運転士のイメージアップを図るとともに、新たな担い手の発掘を図るためのPRを行います。

実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

他地域の事例 バス運転士の確保に向けた取組

公共交通の担い手不足は全国でも喫緊の課題となっており、消防職員や自衛隊員の再就職、移住制度等との組み合わせによる取組も行われています。

① 桑名市

消防職員が運転手に！

- 消防職員が60歳を迎えた際に、バスの運転手として働くことができる協定を締結。**全国初。**
(R6年4月から。締結バス会社：三重交通。)
- 最長72歳まで雇用。
- 大型2種免許の取得費用はバス会社が負担。
- 消防職員は60歳以降は現場業務が体力的に厳しいこともあるが、運転手不足が深刻なバス会社にとっては、**運転経験が豊富で地元の道路事情に詳しい人材が確保可能に。**

出典：桑名市資料より国土交通省作成

② 北海道運輸局

自衛隊員を運輸業界に！

- 北海道運輸局室蘭運輸支局で、深刻化する運輸業界の人手不足解消へ向け、即戦力として期待が掛かる自衛隊員向けの「再就職支援説明会」を実施。
- 自衛隊員の退職年齢は、一般的に55歳～57歳定年とやや早期に退職することに加え、自衛隊在職中に取得した様々な資格や技能を活かすことが可能。

国土交通省 第1回地域公共交通計画の実質化に向けた検討会（令和5年12月12日開催）

資料1「「地域公共交通計画」の現状等」より

他地域の事例 自治体ホームページでの情報発信

足立区では、路線バスの運転士不足の現状と問題点と合わせ、運行事業者の採用ホームページリンクを区ホームページに掲載しています。



求む！路線バスの運転士



なくてはならない路線バスがピンチ！

路線バスは重要な交通手段の一つです。

足立区では民間のバス6事業者と都営バスが多数の路線を運行しており、足立区民の生活の足となっています。

しかし、全国的にバス運転士の「なりて不足」や「高齢化」といった課題を抱えており、区内のバス事業者も例外ではありません。令和6年3月には運転士不足等の理由によりはるかぜ2路線が運行終了となりました。

はるかぜ廃止路線の詳細は[こちら](#)

運転士不足による
バス路線への影響

バス業界の現状について

全国・区内の
運転士不足の現状

1. 全国の大型二種免許の保有者数

路線バスを営業運転するために必要な大型第二種免許保有者の数は年々減少しています。令和5年の保有者数は令和元年比で約10%減少しています。

出典：足立区ホームページ「求む！路線バスの運転士」

目標 2 安全・安心で快適に移動できる環境をつくります

施策 2 - 1 移動環境の改善

市内の公共交通（鉄道・路線バス・コミュニティバス・タクシー）を誰もが利用しやすくなるよう、交通事業者や沿線施設、地域住民と協働して安全で快適な移動環境の構築を目指します。

①鉄道のバリアフリー化・安全確保の促進								
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道事業者と連携し、鉄道駅のバリアフリー化を推進するとともに、車両内でのスペース確保やホームと車両の段差の解消など、安全・安心かつスムーズに鉄道を利用できる環境の構築を進めます。 鉄道利用時の安全確保に向けて、JR 中央線のホームドアの早期設置に向けて鉄道事業者への働きかけを行います。 								
実施主体	鉄道事業者							
関連・連携機関	市・都							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
②主要バス停でのバス待ち環境の改善								
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅等の市内の主要なバス停について、バス事業者等と連携し、交通安全上の課題などにも配慮した上で関係機関と協議を行い、上屋や椅子の設置を検討します。 								
実施主体	バス事業者・市							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
③ユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入促進								
<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心・安全で快適に利用できる、ユニバーサルデザイン（UD）タクシー車両の導入を推進します。 必要に応じて、事業者の取り組みの支援や、車両の利用について市民への周知を行います。 								
実施主体	タクシー事業者・市							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14

追加

コラム ユニバーサルデザイン (UD) タクシー

健康な方はもちろんのこと、足腰の弱い高齢者、車いす使用者、ベビーカー利用の親子連れ、妊娠中の方など、誰もが利用しやすいタクシー車両であり誰もが普通に使える一般のタクシーです。

外見で UD タクシーであることが判別しやすいように、認定を受けた車両は UD タクシーであることを示すマークを車体に表示しています。



都内にて撮影

出典：国土交通省「新しいユニバーサルデザインタクシーを認定しました！」(R6.4.15)

施策 2 - 2 公共交通利用マナーの向上

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が安心して公共交通を利用するためには、相互理解のためのコミュニケーションと、支え合いが重要となります。交通手段を安全に利用する方法の周知とともに、利用者同士の思いやりを醸成することで、誰もが気持ちよく公共交通を利用できる環境の構築を目指します。

追加

①心のバリアフリーの推進

- 様々な利用者が安全・安心に公共交通を利用することができるよう、事業者とともに、合理的配慮の提供を行います。
- また利用者同士での声かけを推進します。具体的には交通事業者や周辺自治体と連携し、ベビーカーでのバス利用や高齢者の着席など、場面に応じた声かけのポイントの周知やサポート月間の設定等を検討します。
- 教育機関等と連携し、子どもたちへのバリアフリー教室の開催を促進します。

実施主体	市・交通事業者							
関連・連携機関	周辺自治体・関連団体・教育機関							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

✓ **心のバリアフリー**とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。高齢者、障害者等の困難を自らの問題として認識し、心のバリアを取り除き、その社会参加に積極的に協力することが重要とされています。

出典：国土交通省ホームページ「心のバリアフリー/障害の社会モデル」より

✓ **合理的配慮**とは、障害者から「社会的なバリアを取り除いてほしい」旨の意思の表明があった場合に、行政機関等と事業者がその実施に伴う負担が過重でない範囲で社会的なバリアを取り除くために必要かつ合理的な配慮を講ずることです。

出典：内閣府リーフレット「令和6年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されました」より

②バス車内環境の改善

- CoCo バスだよりや車内・バス停への掲示、車内アナウンスにより、CoCo バスの全座席が「思いやりシート」として、お年寄りや身体の不自由な方、乳幼児をお連れの方等の優先席となっていることを周知します。
- バス事業者と連携し、バス利用に関する案内や対応について、運転士への教育を徹底します。また行き先や運賃、周辺施設へのアクセス方法などについて、車内の案内表示の見直し・拡充を行います。

実施主体	市・バス事業者							
関連・連携機関	地域住民							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

③交通ルール・マナーの向上

- 教育機関等と連携し、バスや自転車、電動キックボード等の多様な交通手段に対応した交通安全教育を行います。
- 自転車利用者に対しては、ヘルメット着用が努力義務であることの周知啓発を行い、ヘルメット着用率の向上を目指します。
- シェアサイクルや電動キックボード等のシェアリングサービスについては、定められたルールに応じた乗り方や走行において注意・配慮すべきマナー等について、事業者による啓発の徹底を要請します。
- 春秋の交通安全週間や交通事業者、都のイベント等と連携し、あらゆる世代に対して自動車、歩行者、自転車といった様々な目線からの交通安全・マナー向上・利用促進を行います。

実施主体	市	旧4-2「シェアモビリティの適切な活用」 ②安全利用の促進を合体						
関連・連携機関	教育機関・交通事業者・警察							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

コラム こころのバリアフリーの周知推進

追加

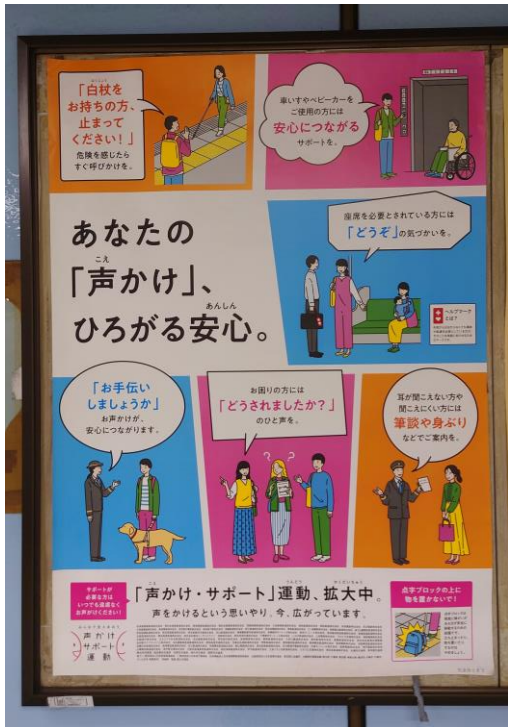
国や東京都では、心のバリアフリーに対する理解が促進され、実践につながるよう、お手伝いの心構えやポイントを具体的な事例を交えて解説したガイドラインが作成されています。

お年寄りへの座席を譲る声掛け、ベビーカーを
押したお母さんへの荷物を持つ手伝いの声掛け
事例を掲載予定

出典：東京都福祉局「心のバリアフリー」の実践に向けたハンドブックより

他地域の事例 鉄道駅での「声かけ・サポート」ポスター掲示

全国の交通事業者及び障がい者団体等が連携し、鉄道などの施設を安全に安心して利用いただけるよう、周囲の利用者からも声かけに協力いただく取組を行っています。



都内にて撮影

他地域の事例 電動キックボードの交通安全・体験イベントの実施

東京都では、令和5年7月から適用された「特定小型原動機付自転車（特定原付）」に該当する電動キックボードの新ルールを周知するため、警視庁や関係団体等と連携し、電動キックボードの安全利用啓発イベントを実施しました。

合わせて電動キックボードの試乗コーナーや運転免許返納相談会も実施しています。



出典：東京都生活文化スポーツ局ホームページ

追加

他地域の事例 バリアフリー教室の開催

関東運輸局では、小学校をはじめとした教育機関やイベントと連携し、バリアフリー教室を開催しています。学校の福祉・総合学習等を担当する教師を対象としたバリアフリー教室も開催し、教師自らがバリアフリーについて学習し、児童に対して裾野の広い「心のバリアフリー」の推進も行っていきます。



車いす体験



アイマスク体験



福祉車両乗車体験



バス出前講座

出典：関東運輸局ホームページ

「令和5年度 関東運輸局管内バリアフリー教室開催内容」群馬県高崎市立岩鼻小学校より

自ら適切にルートや手段を選択できることがバス同士の乗り継ぎ抵抗を心理的に軽減させる意味もあるため、旧 3-1 からリード文を一部移行し、目標 3 からは再掲を削除

施策 2 - 3 情報提供の充実化

小金井市内では5社の路線バス、CoCo バス及び武蔵野市のコミュニティバス「ムーバス」が運行しており、定時性や運行頻度、路線の複雑さから特にバス同士の乗り継ぎには抵抗が大きい傾向にあります。

また、公共交通については交通部門、高齢者や障がい者の移動支援については福祉部門が所管しており、横断的な連携による情報の集約と周知が必要な状況です。

駅やバス停の他、お出かけ前にもスマートフォンやマップ等で運行状況を確認し、移動ニーズに応じて適切にルート・手段を選択できるよう、情報提供の充実化を目指します。

①リアルタイム運行情報の提供

- 市内を運行する路線バスやコミュニティバスの運行情報をリアルタイムに確認できるようにするため、バス事業者と連携し、標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP、GTFS リアルタイム）に従ってオープンデータ化を推進します。
- 現在、CoCo バスは京王バスのホームページ（バスナビ）から位置情報を確認できますが、CoCo バス・ミニ（野川・七軒家循環）は未対応です。運行事業者と連携し、位置情報や乗車状況の提供に向けた検討を行います。

実施主体	市・バス事業者							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討				実施・継続			

②公共交通マップの更新

- CoCo バス・路線バス・タクシー・鉄道を利用いただくために、公共交通マップを作成しています。CoCo バスの再編時に市民への全戸配布をし、以降は転入者への市窓口での配布、市の公共施設での配布を行っています。これらのマップの情報更新を行うとともに、よりわかりやすく必要な情報が得られるよう、改善を図ります。
- 来訪や居住の状況を踏まえ、必要に応じてマップの多言語化も検討します。

実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							

③移送サービス情報の集約、周知

- 心身の特性や移動の状況に応じて公共交通と福祉交通を適切に選択できるよう、市の交通部門と福祉部門が連携して移送サービスに関わる情報の集約、周知を行います。
- 高齢者や障がい者の移動における課題や移動ニーズは、包括支援センター・障害者地域自立生活支援センターと連携し、意見の集約を図るとともに、改善や工夫のための施策を連携して検討します。

実施主体	市							
関連・連携機関	包括支援センター・障害者地域自立生活支援センター							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討				実施・継続			

施策 2-4 歩行空間・自転車利用環境の形成

小金井市は JR 中央線を軸としたコンパクトなまちが形成されていますが、歩道が狭い、または歩道が無い道路も多い状況です。また、近年整備が進められている自転車走行空間の整備も限定的です。

バス停や駅への移動、またベビーカーや車いすでの移動もしやすくなるよう、道路事業と連携した歩行空間・自転車利用環境の形成を目指します。

①無電柱化事業と合わせた歩道の補修、改善								
<ul style="list-style-type: none"> 小金井市無電柱化推進計画に基づき、電柱の地中化を推進するため、市道第136号線（ムサコ通り）と市道第12号線（緑中央通り）の2路線について優先的に整備を進めています。併せて歩道の補修や改善を行い、安全・快適な歩行環境の形成を進めます。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							
②自転車総合計画の策定による走行空間の確保、安全利用の推進								
<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行空間の確保と安全利用の推進に向けて、小金井市自転車総合計画（仮称）の策定に取り組みます。市内の公共交通と自転車の接続を考慮し、優先して整備すべき路線及び整備形態を検討します。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

追加

小金井市の取組 無電柱化の推進

市道第136号線（ムサコ通り）と市道第12号線（緑中央通り）の2路線は、東京都の無電柱化チャレンジ支援事業の認定を受け、計画通り2021（令和3）年に着手しています。



出典：小金井市無電柱化推進計画【改定】（2022（令和4）年4月）

コラム

自転車ネットワーク計画の策定による自転車通行空間の整備推進

国土交通省と警察庁では、合同で「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を策定しており、このガイドラインに基づき、歩行者と分離された自転車通行空間の整備を推進しています。

また自転車通行空間を効果的、効率的に整備するため、自治体による自転車ネットワーク計画※の策定を促進しています。

※安全で快適な自転車通行空間を効果的、効率的に整備することを目的に、面的な自転車ネットワークを構成する路線を選定し、その路線の整備形態等を示した計画。



<自転車道>

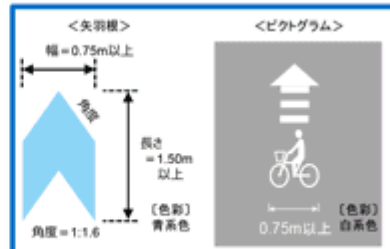


<自転車専用通行帯>

今後小金井市でもネットワーク計画策定に取り組むことも踏まえ、国の考え方を追加



<車道混在>



<車道混在とする場合に併用する路面表示の標準仕様>

出典：国土交通省ホームページ「自転車利用環境の整備」より

目標3 地域の魅力向上のために 移動に便利なまちの拠点をつくります

施策3-1 乗り継ぎ・乗り換え機能の強化

小金井市では、JR 武蔵小金井駅が南北のバス路線の大きな乗り継ぎ拠点となっており、バス路線が集中している状況です。

JR 中央線沿線では、JR 武蔵小金井駅・東小金井駅周辺のまちづくり事業や新庁舎等の建設が進められており、交通集中が見込まれます。

多様な交通手段を集約し、自由に選択できるように、また公共交通ネットワークを最大限活用できるように、乗り継ぎ・乗り換えについて時間的・心理的な抵抗を軽減させるための環境の整備を行います。

①乗り継ぎ・乗り換え拠点の整備								
<ul style="list-style-type: none"> 武蔵小金井駅・東小金井駅周辺のまちづくり事業や新庁舎等の建設に合わせ、バスやタクシーの利用が円滑となるよう、バス停の配置を検討します。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	バス事業者・鉄道事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				
②駅前広場の維持・管理								
<ul style="list-style-type: none"> 武蔵小金井駅・東小金井駅・新小金井駅の駅前広場は、市が継続して維持管理を行うとともに、利便性の向上のため、利用状況や改善ニーズの把握に努めます。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	バス事業者・鉄道事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	実施・継続							
③地域の乗り継ぎ拠点の設置検討								
<ul style="list-style-type: none"> 新庁舎や大規模公園・大学等の拠点施設やバス停周辺では、公共交通を利用したあと、自宅や目的地までのあと一歩の移動を支援するために、シェアリングサービス事業者との協議により、シェアリングポートの設置を推進します。 								
実施主体	交通事業者							
関連・連携機関	市							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討			実施・継続				

他地域の事例 地域の乗り継ぎ拠点の整備

杉並区では、区役所敷地内に複数のシェアサイクルのポートを設置しています。
 世田谷区では、ENEOSによる実証実験等を経て、電動二輪向けバッテリーのシェアリングサービスを提供する「ENEOSマルチモビリティステーション」が設置されています。

■ 杉並区役所（左）、ENEOSマルチモビリティステーション（右）



施策3-2 乗り継ぎ・乗り換え拠点における情報提供の充実化

多様な利用者が集まる鉄道駅等の乗り継ぎ・乗り換え拠点では、市民や国内外の来訪者などの誰もがスムーズに乗り継ぎ・乗り換えができるわかりやすい情報提供を目指します。

案内表示の統一化について追加

① 駅や主要バス停でのわかりやすい情報提供

- 系統ごとに乗り場が分散している鉄道駅ロータリーでは、協議の場を設けるなど、交通事業者と連携して案内表示の統一化を図ります。具体的にはどの乗り場から、どのバスに乗って、どのように運賃を支払えばよいのかなど、バスの利用に関する情報をわかりやすく示します。
- 南北の出口によってバスの行き先が異なるJR武蔵小金井駅では、鉄道事業者と連携し、改札近くで主要なバス乗り場を把握できる案内表示の方法を検討します。

実施主体	市・バス事業者・鉄道事業者							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討				実施・継続			

②多様な主体への案内機能の強化

- 鉄道駅等の乗り継ぎ・乗り換え拠点においては、デジタルサイネージ等を活用し、外国人観光客を含めた国内外の来訪者に向けて、バスの運行情報や乗り方（運賃の支払い方法やルール・マナー等）の案内機能を強化します。
- 立ち寄り先の情報などについては、市の観光部門と連携し、周辺地域も含めた周遊情報の提供を検討します。

実施主体	市・バス事業者							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討					実施・継続		

追加

小金井市の取組 ▶ デジタルサイネージの設置（武蔵小金井駅南口）

JR 武蔵小金井駅南口ロータリーでは、バス事業者との連携により、デジタルサイネージを設置しました。バス乗り場やお知らせだけでなく、発車時間をリアルタイムに表示するため、次に発車するバスの時間が一目でわかります。



他地域の事例 デジタルサイネージによる多言語案内（葛西臨海公園駅）

京成バスでは、多言語対応のデジタルサイネージを活用し、バスの運行情報に加えて周辺の観光情報等を提供するなど外国人観光客を含めた利用者の利便性向上に取り組んでいます。

デジタルサイネージによる運行情報提供(バス×バス+観光)

《運行情報・観光情報提供(葛西臨海公園駅)》

- 多言語対応のデジタルサイネージを活用し、バス運行情報、周辺観光情報を提供し、外国人観光客を含めた利用者の利便性を向上

【多言語対応の表示画面】



【外観】



※表示画面の情報は平成29年3月21日時点

出典：京成バス株式会社 News Release（平成29年3月21日）

出典：第1回 バスタプロジェクト推進検討会 配付資料2「バスを中心とした交通結節点に関する参考事例」

目標4 新たな技術等の効果的な活用に向けた検討を行います

施策4-1 新たな技術等の活用に向けた検討

近年、交通における新たな技術の活用動向が目まぐるしく変化しており、小金井市内においても電動自転車や電動キックボード等のシェアリングサービスの参入が進んでいます。鉄道駅やバス停から自宅や目的地までなど、公共交通を補完する自由な移動手段として、これらが適切に活用されることを目指します。

また、近隣自治体では MaaS や自動運転の実証実験なども実施されており、これらの新技術について、小金井市の交通の状況を鑑みて、適切に対応していくことが必要です。

旧4-1「新技術の活用に向けた検討」と旧4-2「シェアモビリティの適切な活用」の記載に重複する部分があったので、ひとつの施策として整理

① シェアリングサービスの適切な活用									
<ul style="list-style-type: none"> 現在シェアリングサービスに用いられている電動自転車や電動キックボードは、市域を超えるような短中距離の移動も容易になりますが、公共交通の持続可能性を確保するためには路線バスやコミュニティバス、タクシーとの役割分担・連携が必要です。シェアリングサービスの活用にあたっては、事業者と協定を締結するなどにより、役割分担・連携を明確にします。 その上で、公共施設の敷地（市役所や市立公園、市立自転車駐車場等）の一部をポートとしてシェアリングサービス事業者に貸し出すなど、公民連携による効率的なポート設置を行います。 									
実施主体	市								
関連・連携機関	シェアリングサービス事業者								
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
	準備・検討				実施・継続				

「シェアモビリティ」「シェアサービス」の表記を整理

② 新たな技術や制度の活用に向けた関係者との連携									
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通連携（MaaS 等）や、最新の法制度改正（自動運転等）等に備え、必要に応じて関係者とともに新たな技術や制度の研究・調査を行います。 									
実施主体	市								
関連・連携機関	交通事業者								
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
	準備・検討					実施・継続			

③ 民間資源の活用・連携									
<ul style="list-style-type: none"> 新たな移動手段や仕組みの導入には、民間事業者との連携が不可欠となります。これらが小金井市内で適切に活用されるよう、小金井市内でのサービス提供にあたっては協定等により取り決めを行います。 									
実施主体	交通事業者								
関連・連携機関	市								
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	
	実施・継続								

コラム MaaS

MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。



出典：国土交通省ホームページ「MaaSとは」

施策4-2 公共交通に関するオープンデータのまちづくりへの活用

公共交通に関する情報のオープンデータ化（誰もが編集・加工等がしやすい形で、インターネットで公開すること）を行うことで、経路検索サービスや大手地図サイト等で運行情報を検索できるようになります。

公共交通利用者の利便性向上に加え、まちづくりへの活用を目指し、事業者によるオープンデータ化、および行政によるデータ活用の検討を行います。

①オープンデータ化の促進								
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バスに加え、新規に参入するシェアリングサービス事業者等に対しても、オープンデータ化を促進し、データの活用を図ります。 バスの運行情報については、標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP、GTFS リアルタイム）に準拠したデータ整備を促進します。 								
実施主体	交通事業者							
関連・連携機関	市							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討				実施・継続			
②まちづくりへの活用に向けたデータ収集・活用の検討								
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通に関するデータを収集し、まちづくりへの活用に取り組めます。国や東京都の研究結果等を確認し、バスの利用状況の把握や遅延の改善などへの活用可能性を検討します。 必要に応じて、交通事業者との調整により、まちづくりへの活用が行いやすいデータの収集を行います。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討				実施・継続			

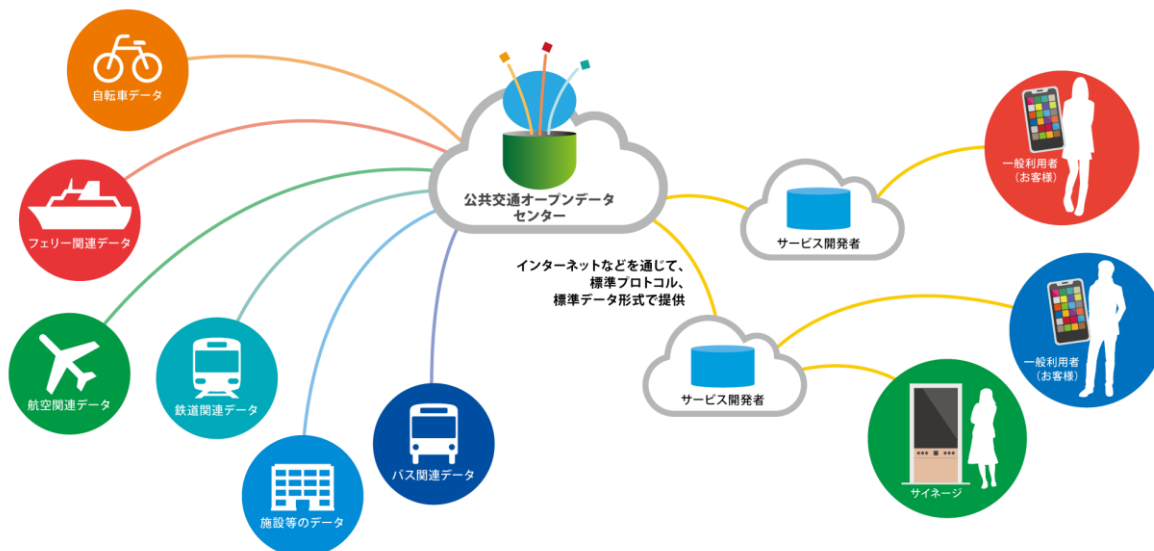
新技術とデータの活用が関連するため、旧4-3「環境にやさしい車両の導入支援」と旧4-4「公共交通に関するオープンデータのまちづくりへの活用」の順番を入れ替え

コラム オープンデータ

スマートフォン、タブレット端末、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の普及等を背景に、多種多様な情報を相互に連携させて新たな価値を生み出すことが期待されています。

官民データ活用推進基本法（平成 28 年法律第 103 号）において、国及び地方公共団体はオープンデータに取り組むことが義務付けられました。

公共交通に関するデータについては、首都圏を中心とした主要交通事業者や主要な経路探索事業者にて「公共交通オープンデータ協議会」が設立され、参画する交通事業者のデータをとりまとめ、一般の開発者等にワンストップで提供しています。



出典：公共交通オープンデータ協議会ホームページ「公共交通オープンデータセンターとは」

<https://www.odpt.org/overview/>

他地域の事例 **バスの運行データの活用**

全国のバス事業者や自治体で、「標準的なバス情報フォーマット (GTFS-JP)」の活用が進んでいます。共通化されたフォーマットでデータを整備することで、運行情報が迅速に世界中の経路探索サービスへ反映されます。利用者の利便性向上だけでなく、自治体や事業者による交通分析や運営の効率化への活用も期待されます。

2 岐阜県中津川市

動的
コミバス

市内のバス路線の「GTFS-JP」「GTFS-RT」データを整備しオープン化
多言語整備しインバウンド需要に対応、デジタルサイネージも低コストで導入



中津川市「公共交通オープンデータ“最先端田舎”への挑戦」
<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/page/083350.html>

出典：国土交通省「標準的なバス情報フォーマット」ダイジェスト (2021年9月30日) より

追加

他地域の事例 **自転車の利用データの活用**

シェアサイクルの利用データからシェアサイクルの利用が多い経路や立寄りエリアを分析し、自転車通行空間の整備やシェアサイクルポートの配置検討に活用されています。

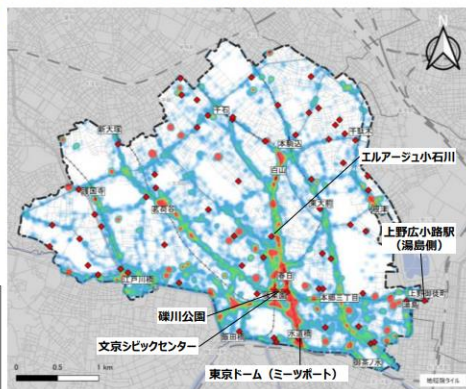
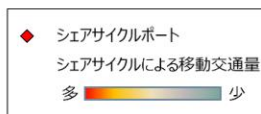
自転車ネットワーク計画との連動の事例 (東京都文京区)

東京都文京区では、自転車ネットワーク路線の選定に際し、シェアサイクルの利用状況やシェアサイクルポートの位置を考慮しています。

【自転車ネットワーク計画】

▼シェアサイクル利用を考慮した自転車ネットワーク路線選定の視点

視点	項目
安全性の向上	自転車関連の事故が発生した箇所
	危険に感じる箇所
	自転車の利用が多い経路 シェアサイクルの利用が多い経路
施設への接続	鉄道駅、 シェアサイクルポート 、駐輪場
	行政施設、商業施設、スポーツ施設等
	学校 幼稚園・保育園、観光スポット



出典：国土交通省「シェアサイクル事業の導入・運営のためのガイドライン」より

施策 4 - 3 環境にやさしい車両の導入支援

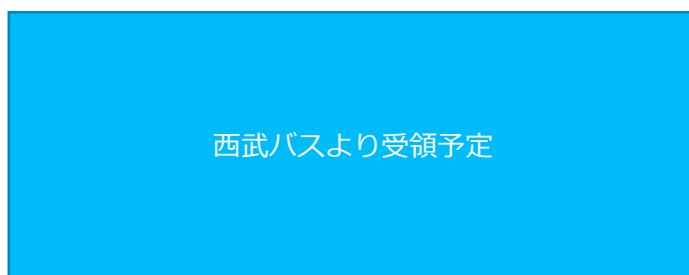
国や東京都では、運輸部門の二酸化炭素排出量の削減を図るため、タクシーやバスの電動化を進めています。

小金井市においても「第 2 次小金井市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。市内を走行する車両について、環境にやさしい車両の導入を進め、低炭素社会への寄与を目指します。

①環境にやさしい車両の導入支援								
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの車両の入替時に電気バス（EV）等の導入を検討します。 市内のバス事業者及びタクシー事業者に対し、国や東京都の補助の案内や申請支援を行います。 								
実施主体	市・交通事業者							
関連・連携機関	—							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討					実施・継続		
②充電・充填施設の整備支援								
<ul style="list-style-type: none"> 市の環境部門と連携し、公共施設への急速充電設備や水素ステーションの整備、主要な商業施設等と連携した整備など、次世代自動車を利用しやすい環境づくりを検討します。 								
実施主体	市							
関連・連携機関	交通事業者							
スケジュール	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
	準備・検討					実施・継続		

他地域の事例 コミュニティバスへのEVバス導入

東京都清瀬市を走るコミュニティバス「きよバス」では、二酸化炭素を排出せずに走行できる環境に配慮したEVバスを1台導入し、ゼロカーボンシティ実現に向けた取組を加速させています。



出典：清瀬市ホームページ「きよバス」EVバス出発セレモニーを開催しました
(2024年2月27日発表) より

6章 | 計画の実現にむけて

1 計画の実施スケジュール

本計画は令和7年度から令和14年度までの8年間を計画期間として、計画に位置付けた施策や事業を具体化し、進捗管理を行いながら目標達成に向けた取組みを推進します。

中間時点である令和10年度には目標の達成状況を評価し、社会情勢の変化や技術動向等を踏まえ、必要に応じて施策や目標値の見直しを行います。

また、施策を着実に推進していくため、年度ごとに「PDCA サイクル」を運用しながら進捗管理を実施し、必要に応じた改善を行うことで、計画を推進していきます。

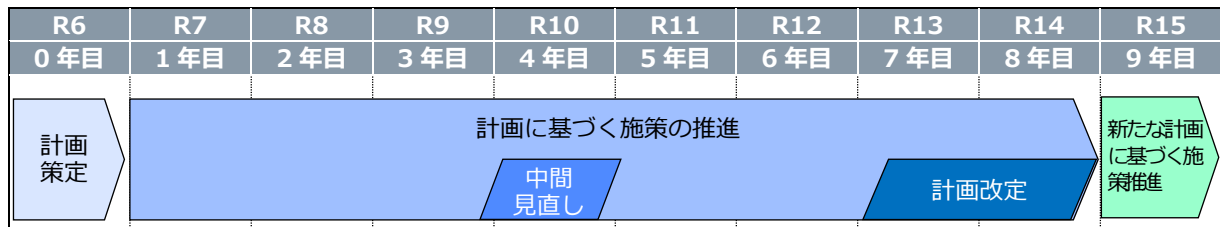
【計画期間中の進め方】

- 各年度の取組み方をもとにした進捗管理による計画の着実な推進
- 中間時点において、評価指標による目標達成状況を評価し、必要に応じて施策や目標値を見直し

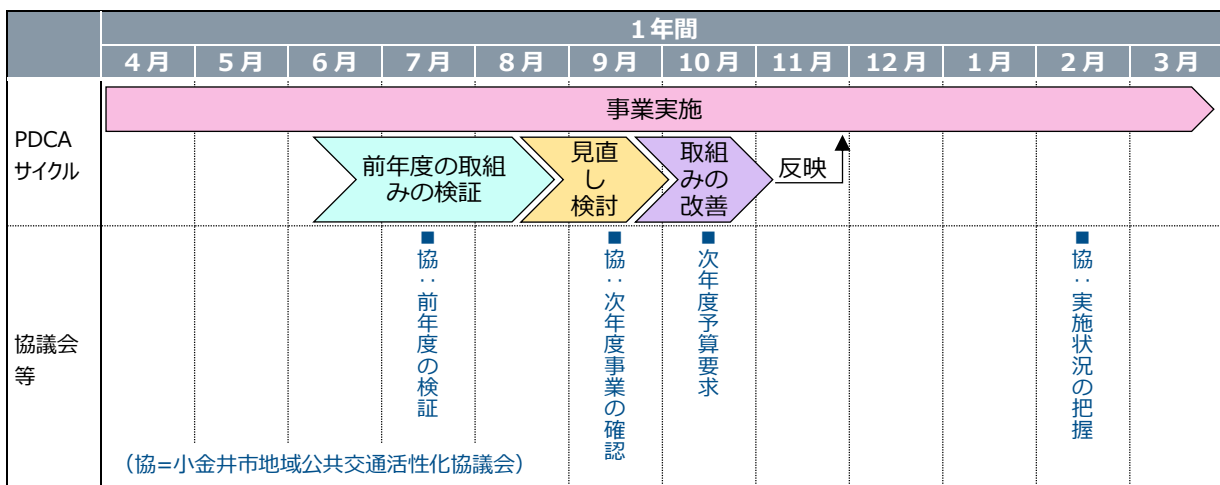
【各年度の取組み方】

取組みの検証：事業の取組み状況や評価指標・モニタリング指標の確認
 検討・改善：検証に結果に基づく見直しの必要性検討、必要に応じた改善（事業のスケジュールや実施箇所等の見直し）

■ 計画期間中の進め方



■ 年間スケジュール



2 評価・モニタリングのための指標

本計画の推進に向けた進捗管理を行うため、目標の達成状況を評価するための評価指標とともに、事業の進捗や実施状況を計る指標としてモニタリング指標を設定します。

評価指標は、主に目標の達成状況を定量的に評価するための指標であり、目標値を設定します。中間見直しや計画改定の際に、目標値の達成状況を確認して評価を行います。なお、年度ごとに関連するデータを収集可能な評価指標については、モニタリング指標とともに年度ごとの事業の実施状況や進捗の確認、事業の検証・見直しに活用します。

モニタリング指標は、事業の進捗状況を計るための指標であり、目標値は設定しません。関連するデータは毎年収集し、その推移により事業の進捗状況を確認し、事業の検証・見直しに活用します。

2.1 評価指標と目標値の設定

目標の達成状況を評価するための評価指標及びその目標値を以下のとおり設定します。

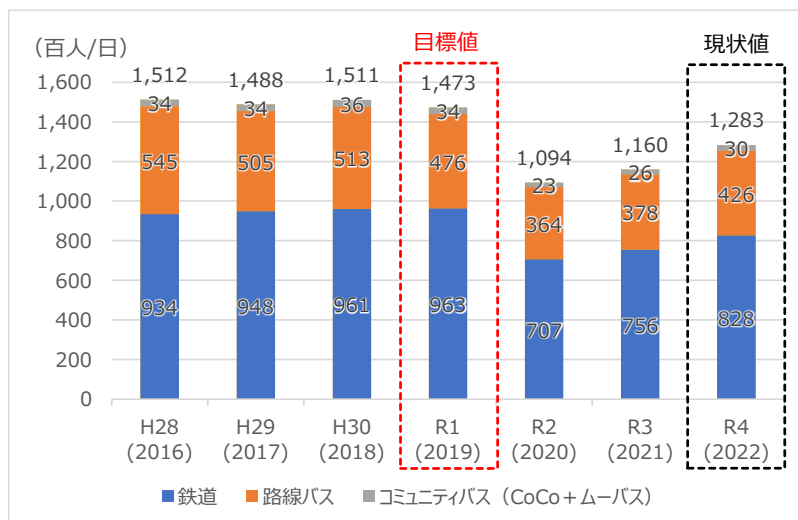
	評価指標	関連目標	現状値	目標値	アウトプット /アウトカム*
1	公共交通利用者数（鉄道・バス）	目標1 目標2 目標3	128,342 人/日 (R4)	147,000 人/日 (R14)	アウトカム
2	市内公共交通の満足度	目標1 目標2 目標3 目標4	50.6% (R5)	60.0% (R14)	アウトカム
3	バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ、情報提供）に対し特に不満を感じている人の割合	目標2 目標3	34.7% (R5)	29.0% (R14)	アウトカム
4	新たな技術の活用に向けた検討・協議体数	目標4	—	4つ (R14)	アウトプット

*アウトプット指標は事業・施策によって生み出される結果、アウトカム指標は利用者・事業者が受ける直接的な効果を示します。例えば、バス路線の新設という事業であれば、事業の実施による路線数の変化はアウトプット指標であり、路線数が増えたことによる利用者の増加や利便性・満足度の向上はアウトカム指標です。

1) 目標値の設定について

指標 1	公共交通利用者数（鉄道・バス）
算出・取得方法	<p><u>算出方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●（鉄道の1日あたり利用者数）＋（路線バスの1日あたり利用者数）＋（コミュニティバス（CoCoバス、ムーバス）の1日あたり利用者数） <p>（鉄道の1日当たりの利用者数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内の駅（武蔵小金井駅・東小金井駅・新小金井駅）を対象とした一日平均乗車数（路線バスの1日当たりの利用者数） ➢ 市内を走る系統を対象とした年間利用者数を365日で除した1日あたりの利用者数（コミュニティバスの1日当たりの利用者数） ➢ 市が運行経費を負担する系統（CoCoバス全系統、ムーバス境・東小金井線）を対象とした年間利用者数を365日で除した1日あたりの利用者数 <p><u>取得方法</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●鉄道は、各鉄道事業者のHPから取得（西武鉄道は「一日平均乗降人員」を2で除した数値、JRは「一日平均乗車人員」の数値） ●路線バスは、各バス事業者から系統単位での利用者数を提供 ●コミュニティバスは、各運行事業者から系統単位での利用者数を提供
現状値	128,342人/日 R4年度実績 （参考）内訳：鉄道 82,759人、路線バス 42,600人、コミュニティバス 2,983人
目標値	147,000人/日 （参考）内訳：鉄道 97,000人、路線バス 47,000人、コミュニティバス 3,000人
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は減少。現在は回復傾向にあるが、生活様式の変化が生じており、今後も利用者数が大きく変化することは難しいと考える。 ➢ 一方で、令和13年度まで本市の人口は増加すると推計されている。 ➢ 人口増加を鑑み、実施する交通施策によって、新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで利用を回復させることを目指して、令和元年度の利用者数を目標値として設定する。

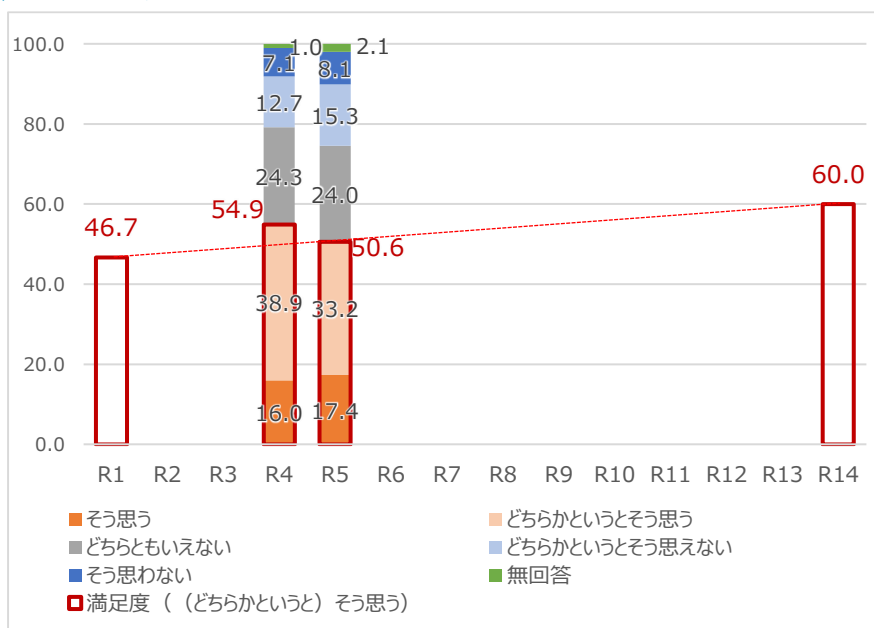
■（参考）一日あたり利用者数推移



指標2	市内公共交通の満足度
算出・取得方法	<p><u>算出方法</u></p> <p>●アンケート調査で『市内の交通手段における利便性に満足している』という設問に対し、“そう思う”、“どちらかというと思う”と回答した人の割合</p> <p><u>取得方法</u></p> <p>●市長への手紙および市民意向調査における『市内の交通手段における利便性に満足している』への回答結果*を担当課から提供</p>
現状値	50.6% R5 年度実績（市長への手紙）
目標値	60.0%（市長への手紙/市民意向調査）
考え方	<p>➢ R1 年度（46.7%）から直近 R5 年度（50.6%）の満足度が年間 0.975%伸びていることから、同様の伸び率を R14 まで継続させることを目標として、60.0%で設定する。</p>

*小金井市の長期総合計画にて指標となっているものについては、市長への手紙および市民意向調査にて、毎年アンケート調査を実施している。現在、第5次基本構想・前期基本計画にて『市内の交通手段における利便性への満足度』が指標となっているため、これを活用するもの。

■（参考）満足度の推移



※R1 は小金井市第五次基本構想・前期基本計画の現状値、R4 と R5 は市長への手紙の集計結果から引用

指標3	バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）に対し特に不満に感じている人の割合
算出・取得方法	<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査で『バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）』に対し特に不満を感じている人数の割合を算出 <p>取得方法</p> <p>（現状値）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年度に実施した市民アンケートの設問『小金井市のバスについて、特に不満と思う項目を不満順で3つ回答ください』に対し、以下項目のいずれか1つでも回答した人の回答者数に対する割合 <ul style="list-style-type: none"> ・ルートや運行状況の情報提供 ・バス停の位置（自宅や目的地からの距離） ・バス停環境（時刻表、屋根） ・他の路線・交通手段との乗継（時間・距離） <p>（見直し、改定時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中間見直し時点、計画の見直し時点にてアンケート調査を実施し取得 ● アンケートでの設問項目は、令和5年度と同様もしくは、『バスの利用環境（バス停、乗り継ぎ・乗り換え、情報提供）に満足しているか』という設問で確認
	現状値
目標値	29.0%（アンケート調査）
考え方	<p>➤ 現状値の34.7%に対して、指標2「市内公共交通の満足度」での伸び率として、現状値（50.6%）、目標値（60.0%）と約1.2倍を目標としていることから、1.2で除した34.7 ÷ 1.2 ≒ 29.0を目標値として設定する</p>

■（参考）市民アンケート項目

4-1 小金井市のバス（路線バス・コミュニティバス）について、特に不満と思う項目の番号を、不満な順に3つご記入ください。

いちばん 不満なこと	<input type="text"/>	2番目に 不満なこと	<input type="text"/>	3番目に 不満なこと	<input type="text"/>
（番号を <input type="text"/> に記入）					
1. ルートや運行状況の情報提供	2. バス停の位置(自宅や目的地からの距離)	3. 運行本数(頻度)	4. 始発バスの時間	5. 最終バスの時間	
6. 時間通りの運行	7. 運賃の金額	8. 運賃の支払い方法			
9. 運行ルート	10. 車内環境(定員、乗り心地)				
11. バス停環境(時刻表、屋根)	12. 他の路線・交通手段との乗継(時間・距離)				
13. 特にない					

指標 4	新たな技術の活用に向けた検討・協議体数
算出・取得方法	<p>算出方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新しい技術に対し、活用に向けた検討・協議の場や枠組みを構築した特定テーマ単位の数を計上 <p>取得方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小金井市にて特定テーマでの検討・協議の回数を集計
現状値	－（計画策定後の実施数をカウントするため現状値はなし）
目標値	4 件（市で把握）
考え方	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在、市場に普及・一般化している GTFS や新しいシェアモビリティの 2 件については検討を実施する。 ▶ また公共交通連携（MaaS 等）や、最新の法制度改正（自動運転等）等など、ここ数年で進展する可能性があるものについては、2 テーマ程度は調査・研究を行うことを目標として、計 4 件とする。

2.2 モニタリング指標の設定

モニタリング指標は、目標ごとに以下のとおり8項目を設定しました。

	項目	アウトプット /アウトカム	データの取得方法
目標1			
1	市内を走るバスの系統数	アウトカム	系統数：市、事業者で把握
2	イベント回数 (周辺市連携、利用促進、採用の合計)	アウトプット	回数：市、事業者で把握
目標2			
3	安全に移動できていると感じる割合	アウトカム	割合：市民意向調査もしくは市長への手紙 (現項目：市内を安全に移動できていると感じる市民の割合)
4	市内交通事故件数	アウトカム	件数：警視庁の統計 (警察署別の交通事故発生状況)
5	市内タクシー事業者の福祉タクシー、 UD タクシーの保有数	アウトプット	台数：事業者から提供
目標3			
6	公共施設へのシェアモビリティポート設置数	アウトプット	ポート数：市、事業者で把握
目標4			
7	EV バス等の導入数	アウトプット	新規導入数：市、事業者で把握
8	公共交通オープンデータセンターに 加盟している事業者数	アウトプット	登録数：事業者から提供

3 推進体制

目標の達成にむけて、各施策・事業を着実に実施し、効果を発現させていく必要があります。そのために、関係者との密な連携による効率的・効果的な事業の推進、モニタリングや適切な評価・検証を踏まえた見直しなどが重要となります。

各関係者で協働して本計画を推進していくため、本市、関係機関（国・都・道路管理者・警察）、交通事業者、学識経験者、公募市民などから組織される「小金井市地域公共交通活性化協議会（法定協議会）」を年に数回開催し、本計画の進捗管理や必要に応じた見直しを行います。

また、各事業の実施に向けて専門性が高い議論が必要となった場合には、法定協議会の下部組織にあたる「部会」を設置します。議論のテーマに応じて、法定協議会の委員のみならず、必要に応じて他の地域交通も含めて関係者に参画を求め、協議・調整を図り検討を行います。

加えて、評価指標やモニタリング指標に関連するデータや事業の進捗確認のため、各種データの取得に向けた体制の構築を行います。

地域懇談会の実施

1 実施内容

1.1 会議の内容

- ・ 目標達成のために実施すべき施策と事業について
- ・ 達成状況の指標について

1.2 会議方式

時間	所要時間	分類	内容
0:00~0:10	10分	開会	挨拶、事務局紹介 資料確認、会議の流れの説明
0:10~0:20	10分 【説明のみ】	課題と基本方針、 目標	基本認識の共有のため、小金井市の公共交通における課題と基本方針、目標の説明
0:20~1:20	60分 【説明 5分、 意見交換 15分 ×3 + α】	施策と事業	目標1、目標2、目標3・4の3回に分けて説明、1班5人程度の意見交換
1:20~1:35	15分 【説明・質疑】	指標	達成状況の指標について、説明と質疑
1:35~1:40	5分	閉会	今後の検討の流れ等 アンケート回収

1.3 配布資料

- ・ 課題と基本方針、目標の一覧表（A3）
- ・ 施策と事業（地域公共交通活性化協議会資料と同じもの）
- ・ 達成状況の指標（地域公共交通活性化協議会資料と同じもの）

2 開催日時・場所

開催場所及び時期は令和6年9月下旬を予定している。

場所	会議室	日時
マロンホール	会議室 A	9月17日(火)14時～16時
市民会館 萌え木ホール	3階会議室 A	9月17日(火)18時～20時
公民館 貫井南分館	学習室 A	9月29日(日)10時～12時
桜町上水会館	集会室 A	9月29日(日)15時～17時

※参加者の対象エリアは特に指定しない。

※概ね1時間半程度を想定。

3 参加方法

3.1 申込対象者

市内在住・在勤・在学の方

3.2 定員数

各会場 20 名程度（1 班 5 名×4 班）

3.3 申込・参加者決定方法

原則として、事前申込み制とし、定員超過の場合には抽選を行う。
定員に満たない場合は、引き続き申込みを受け付けるとともに、当日受付も実施する。

- 申込期間： 令和 6 年 8 月 15 日(木)まで
- 申込方法： 申込フォーム、FAX、電話 ※以下 8 点を記載
①参加希望場所（日時） ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥メールアドレス（ある方のみ） ⑦手話通訳の有無
⑧保育の有無
- 抽選方法： 申込期間までに到着した申込みを対象とし、応募者多数の場合は抽選を行う。
- その他：
 - ・手話通訳あり
 - ・申込者には、おおむね 1 週間前に、資料を事前送付する。
 - ・事前予約があった場合は別室で子どもの保育を実施（1 歳以上の未就学児）

4 事前周知

- ・市報
- ・市公式ホームページ
- ・市公式 X（旧ツイッター）
- ・市公式 LINE
- ・市政だより
- ・公共施設へのチラシ設置（公民館、図書館、集会施設、保健センター、親子あそびひろば「ゆりかご」、地域包括支援センター、障害者地域自立生活支援センター、市役所第二庁舎、体育館等）
- ・C o C o バス車内ポスター
- ・広報掲示板
- ・第一回地域懇談会の参加者に対して個別に開催案内を通知
- ・自治会、町会

※募集のチラシ等は、できる限り分かりやすい言葉と表現を用いることとし、興味を持ってもらい、参加しやすいよう工夫する。

公共交通のこと、一緒に考えてみませんか？

～ 小金井市地域公共交通計画の策定に向けて、
ワークショップ(地域懇談会)を開催します～

ワークショップ
参加者募集!

テーマ

交通の様々な課題を解消するための
「取組み」・「目標値」について



市内の交通手段や利用改善について、
参加者同士で意見交換を行い、
小金井市地域公共交通計画に反映します

【開催場所・日時】

会場	会議室	開催日時
マロンホール	会議室A	9月17日(火)14:00～16:00
市民会館 萌え木ホール	3階会議室A	9月17日(火)18:00～20:00
公民館 貫井南分館	学習室A	9月29日(日)10:00～12:00
桜町上水会館	集会室A	9月29日(日)15:00～17:00

※全会場とも同じ内容です。

- ◆対象者 : 市内在住・在勤・在学の方
- ◆申込方法 : 「申込フォーム」「FAX」「電話」のいずれか
- ◆記入事項 : ①参加希望場所(日時) ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号
⑥メールアドレス(ある方のみ) ⑦手話通訳の有無 ⑧保育の有無
- ◆申込期間 : 令和6年8月15日(月)まで
- ◆定員 : 各会場 20名程度 (定員超過時は抽選)
- ◆その他 : 手話通訳あり(当日参加可)、保育要事前申し込み

※事前の申込みが定員に満たない場合は、
当日受付(先着順)を実施します。
※お車でのご来場はご遠慮ください。

お問い合わせ・申込み先

申し込みフォームはこちら↓

小金井市 都市整備部 交通対策課

〒184-8504 東京都小金井市本町6丁目6番3号

電話:042-387-9850

FAX:042-386-2619 メール:s060999@koganei-shi.jp

HP: <https://www.city.koganei.lg.jp/kurashi/482/koukyoukoutsuu/koutukeikakukondan.html>



CoCoバス・ミニ野川・七軒家循環における乗り残しについて

1. 年間の利用状況

- 利用者数はコロナ後から回復傾向にあるが、令和4年度はコロナ前から約2割減まで回復したものの、令和5年度は再編による運賃値上げの影響が減少している。
- 乗り残し人数は令和2年度から令和3年度利用者の回復に合わせて増加していたが、令和4年度は車両入替により乗車定員が10人から12人に増えたため、減少した。令和5年度は利用者数の減少により、乗り残し人数も減少している。

(単位：人)

	利用者数		乗り残し人数	
	人数	前年差	人数	前年差
平成29年度	92,767	2,950	1,750	347
平成30年度	92,215	▲552	1,870	120
令和元年度	90,546	▲1,669	1,939	69
令和2年度	59,835	▲30,711	459	▲1,480
令和3年度	64,381	4,546	915	456
令和4年度	74,299	9,918	400	▲515
令和5年度	59,842	▲14,457	120	▲280

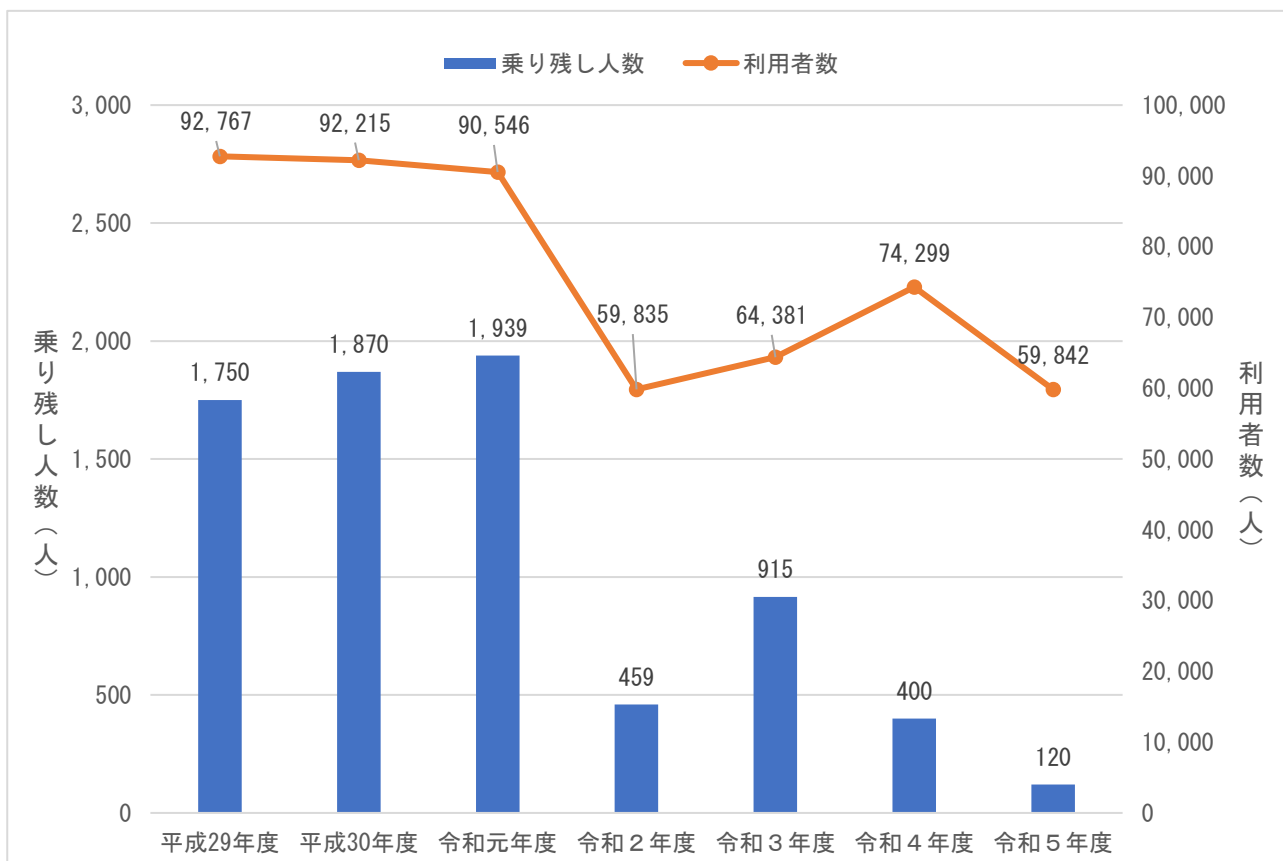


図 利用者数と乗り残し発生数の推移

2. 時間別の乗り残し発生状況

(1) 便別の乗り残し人数

- 過年度までの傾向と同様に、朝時間帯において乗り残し発生数が多い。
- 令和5年度はほぼすべての時間帯において、乗り残しが減少している。

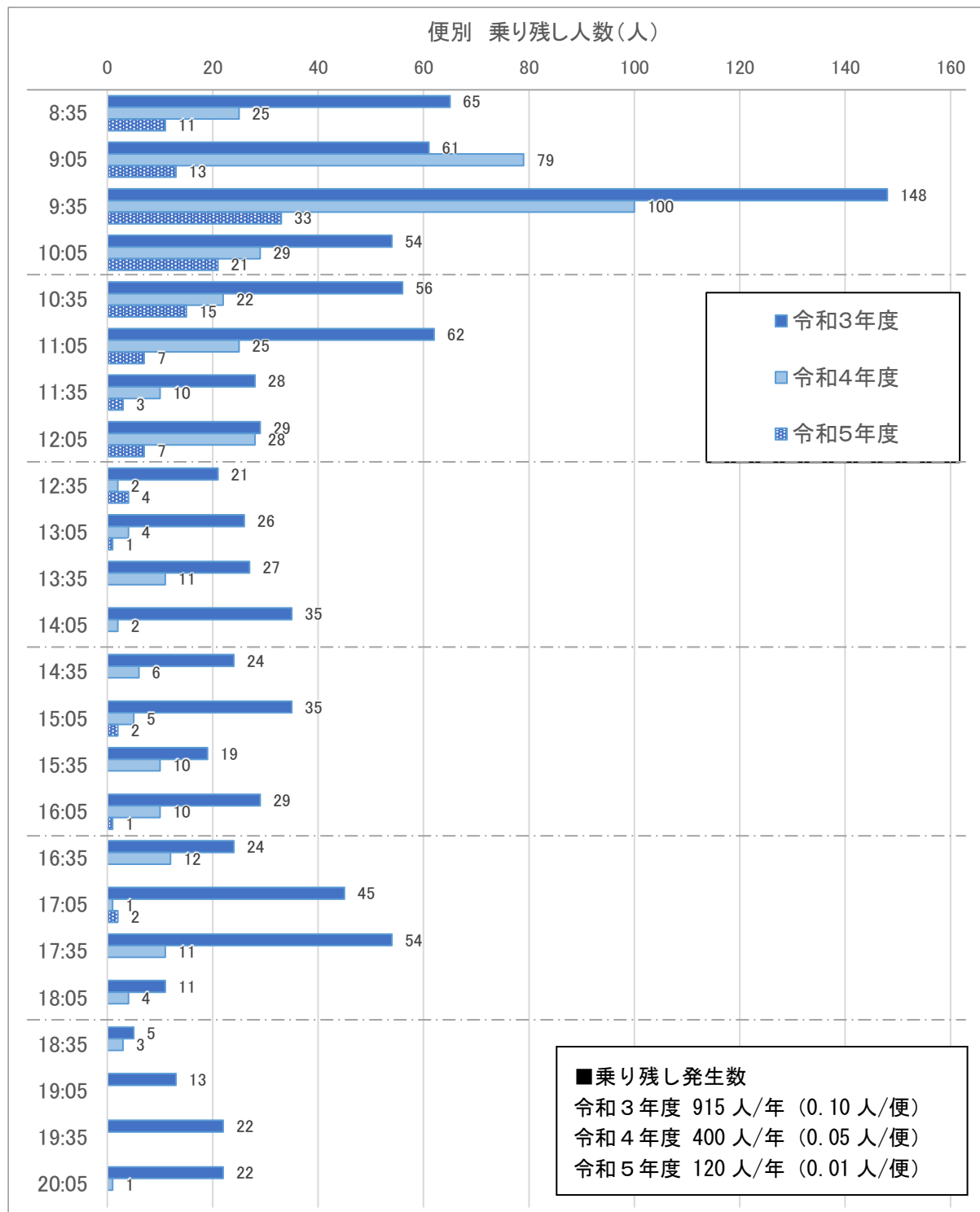


図 便別の乗り残し発生数

(2) 時間帯別の乗り残し発生状況

- 時間帯別の乗り残し発生数をみると令和3年度から令和5年度にかけて全ての時間帯で減少している。特に、午後以降の時間帯の発生数が大きく減少している。
- 発生数は減少しているが、時間帯別の乗り残し発生割合をみると、午前中の発生割合が高くなっている。

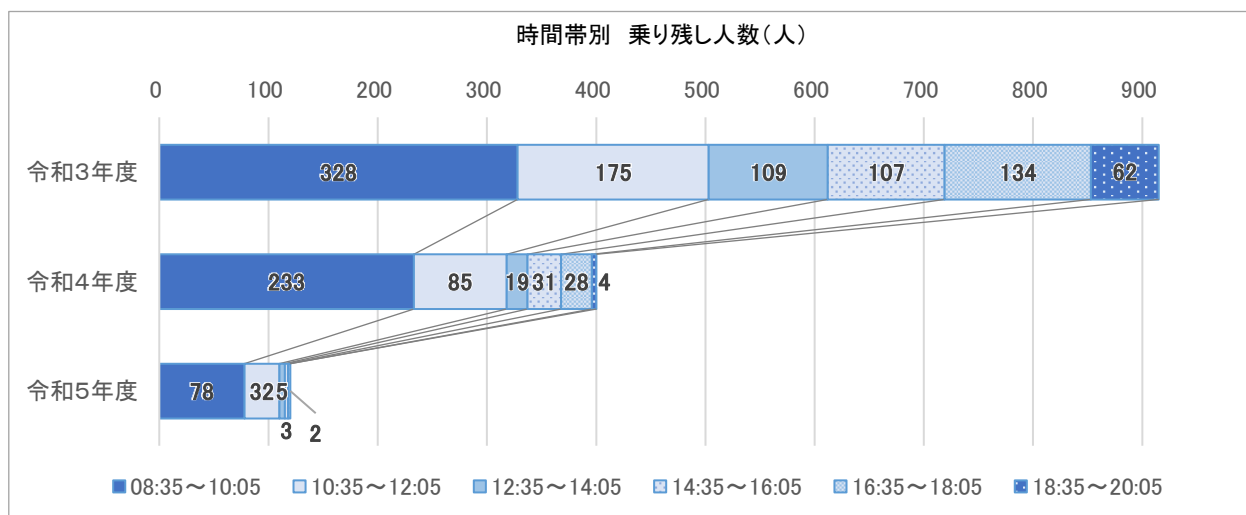


図 時間帯別の乗り残し発生数

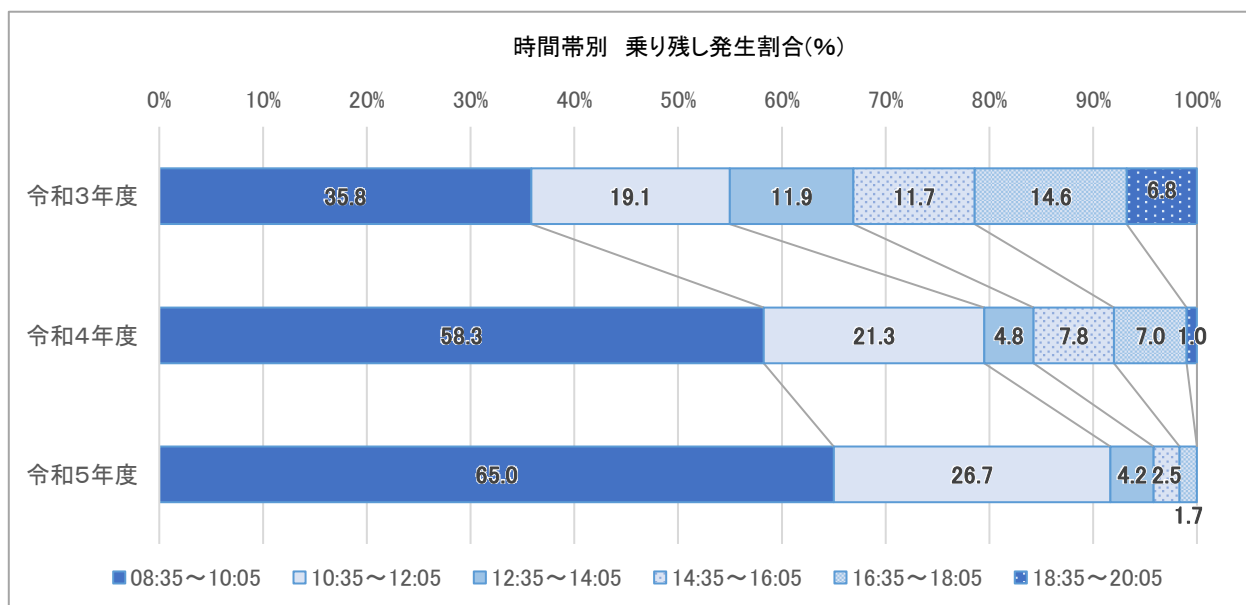


図 時間帯別の乗り残し発生割合

3. 停留所別の状況

(1) 各停留所における乗り残し人数

- 停留所別の人数をみると、令和5年度はほぼ全ての停留所で過年度に比べて減少している。
- 特に武蔵小金井駅南口での乗り残しが減少している。実際には停留所の待機列を確認し、乗れないと諦めている利用者も存在すると考えられる。
- 中前橋など、路線の中間地点付近の停留所は乗り残しも多く発生している。

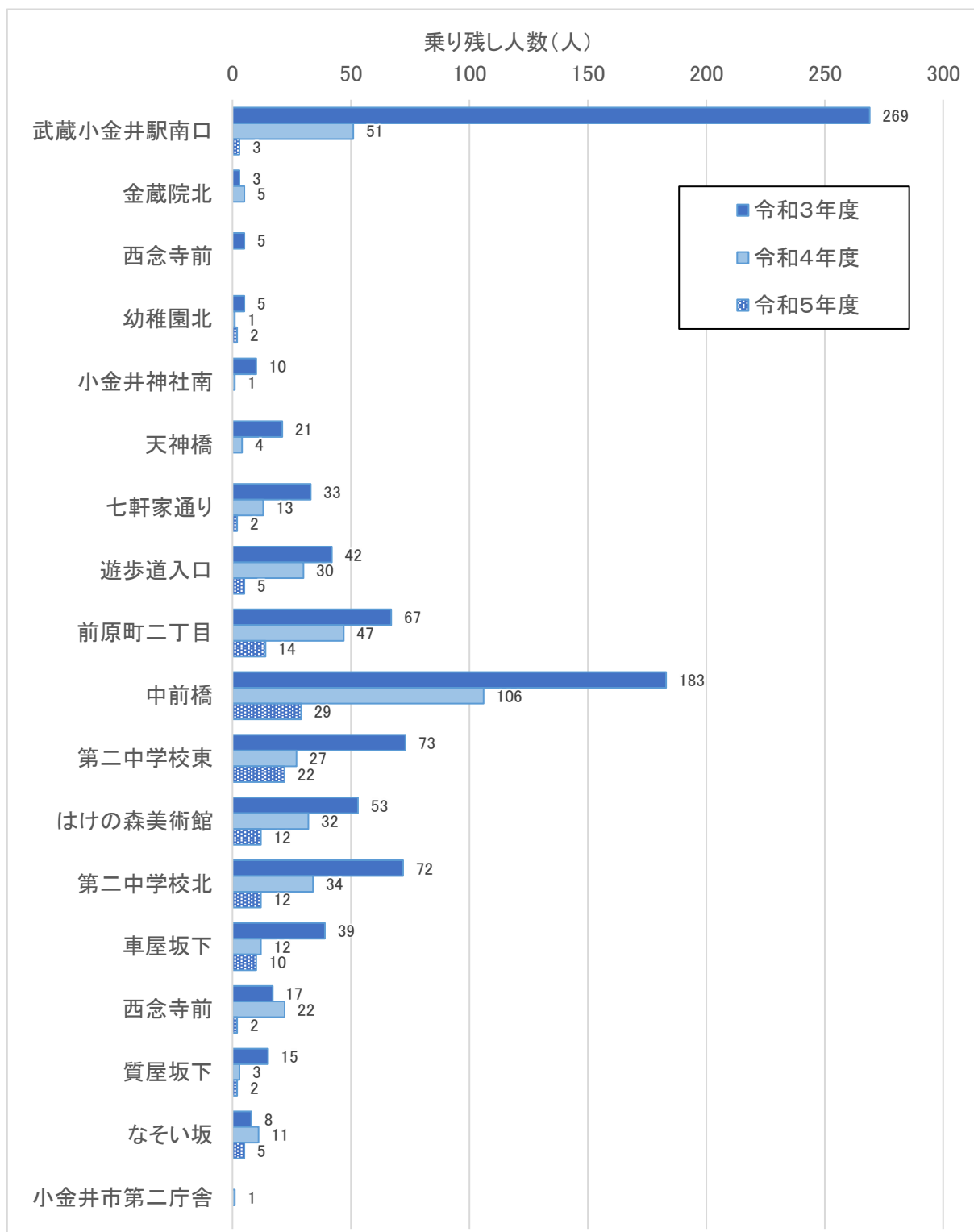


図 停留所別の乗り残し発生数

ココバス★ だより

Vol. 5

令和6年5月発行



梅雨入り間近となりました。不安定な天気が続くと頭痛に悩まされたり、気分も落ち込みがちになりますよね。

だからといって、家にこもっているのは勿体ない！

梅雨の風物詩の紫陽花、雨に濡れて緑が色濃くなる庭園、雨の風情を楽しめる場所は市内にたくさんあります。梅雨ならではの景色をもとめてお出かけしましょう。きっと良い気分転換になりますよ。



武蔵小金井駅南口広場が進化しています！



疲れた時はひとやすみ

～バス停付近にベンチ設置～



5月23日、南口駅前広場の5か所にベンチが設置されました。

疲れた時のひとやすみに、バスの待ち時間に…利用者の方がほっと一息つける場所になると嬉しいです。

お互いに思いやりの心もち、譲り合ってくださいね。

バス停から近い場所なので安心

ベンチの上に屋根があるのが嬉しい

バスの時間まで座っていられるのは楽ちん

嬉しい声がたくさん届いています



目的のバスがすぐに分かる

～デジタルサイネージ設置～



3月16日、南口駅前広場に登場したデジタルサイネージ(電子看板)。バスのりば案内や各種お知らせのほか、運行ダイヤの乱れに合わせたリアルタイムの発車情報が表示されるため(野川・七軒家循環をのぞく)、次に発車するバスの時間がひと目で分かり大変便利です。

今後、お知らせスペースに市のイベント情報等も案内していく予定です。お見逃しなく。

様々な情報が一度に確認できるよ



のりば案内も分かりやすいね



CoCo バス
de
CoCo 行こう！



6月16日は「和菓子の日（嘉祥の日）」

平安時代の西暦848年、国内に疫病が蔓延した際、仁明天皇が元号を「嘉祥」と改め、6月16日に16種類の菓子や餅を神前に供え、厄払いと健康招福を祈ったことが由来になっています。

ということで今回ご紹介するのは・・・

北東部循環 バス停から徒歩1分以内の

和菓子屋さん 

さあ、今すぐ和菓子屋さんめぐりをしよう！

お得に乗るなら一日乗車券(*)がおすすめです。

※一日乗車券 ¥500、全路線乗り放題、バス車内で販売

御菓子司 三陽

本町2-9-10

最寄バス停【北東部循環】① **けやき通り商店街**



けやき通りに面した昭和46年創業の老舗和菓子屋。笹の葉に包まれた「麩まんじゅう」は、もちもちつるりとした生地にあんが入っていて、くせになる美味しさ。ふわっと漂う香りも美味しさを引き立てています。

6/30に日本各地の神社で行われる神事「夏越の祓」に合わせて食べる「水無月」はこの時期ならではの和菓子です。



御菓子司 喜紫多屋

緑町5-20-26

最寄バス停【北東部循環】③ **地藏通り西**



緑中央通りに面した昭和12年創業の老舗和菓子屋。一番人気はお団子。土日祝は小金井公園で5種類のお団子を販売しているそう。おかみさんが九州旅行の際にヒントを得たという「いきなり草団子」や「いきなり芋まんじゅう」も美味しい。

お店に並ぶ和菓子は全て無添加。選ぶのに迷ったら、おかみさんにおすすめを聞くのも楽しいですよ。



菓子の青木屋

本町5-41-3

最寄バス停【北東部循環】② **稲穂神社前**



北大通に面した創業明治26年の老舗菓子屋。

「武蔵野日誌」はミニバームクーヘンに特製クリームが詰まった青木屋を代表するお菓子。定番のチョコ・ホワイト・ストロベリーに加え、6月からは八丈フルーツレモンが登場するそう。見た目が繊細で美しい季節の上生菓子もおすすめです。

